



独立行政法人国立特別支援教育総合研究所  
National Institute of Special Needs Education

# 令和2・3年度難聴児の 切れ目ない支援体制構築と 更なる支援の推進に向けた 研修会

 **実践報告集**

 **取組紹介**

令和4年3月



本実践報告・取組紹介集は、令和2・3年度に実施した「難聴児の切れ目ない支援体制構築と更なる支援の推進に向けた研修会事業」でご報告いただいた4つの特別支援学校（聴覚障害）ならびに、石川県、岐阜県、北九州市の報告集です。

<実践事例掲載校>

- ・ 北海道札幌聾学校
- ・ 東京都立大塚ろう学校
- ・ 大阪府立生野聴覚支援学校
- ・ 長崎県立ろう学校

<支援体制の構築に関する取組紹介掲載自治体>

- ・ 石川県健康福祉部少子化対策監室
- ・ 岐阜県健康福祉部障害福祉課
- ・ 北九州市保健福祉局障害福祉部障害支援課

本資料につきましては、4校の学校長、乳幼児教育相談の先生方ならびに自治体関係者の皆様に多大なる御理解と御協力をいただきました。この場をお借りしまして感謝申し上げます。



難聴児の切れ目ない支援体制構築と更なる支援の推進に向けた全国研修会

# 実践報告について

北海道札幌聾学校

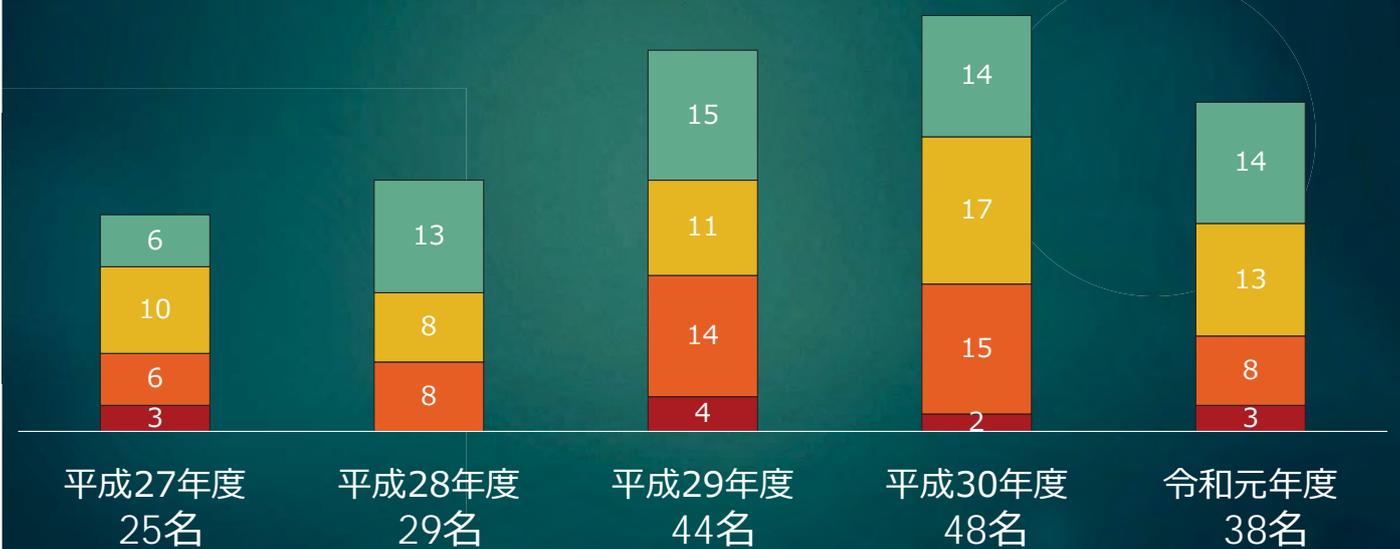
## 1 本校の乳幼児教育相談の現状

## 令和2年度 乳幼児教育相談 来室数（4月～11月現在）

未満児	0歳児	1歳児	2歳児
1名	5名	7名	13名

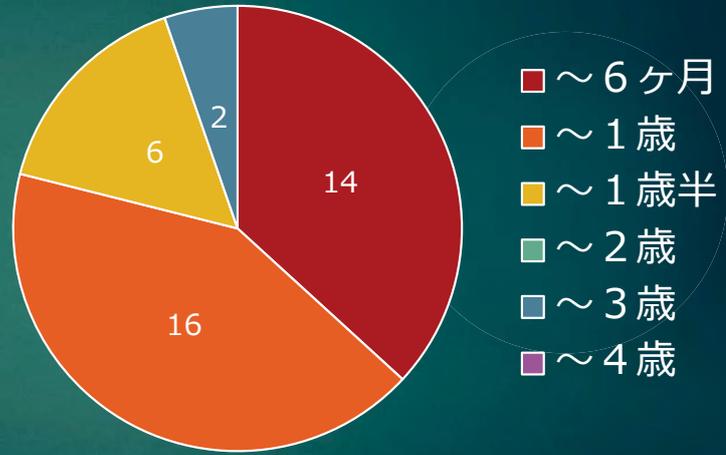
## 来室児の推移（過去5年間） R2.3月現在

■ 0歳未満 ■ 0歳児 ■ 1歳児 ■ 2歳児



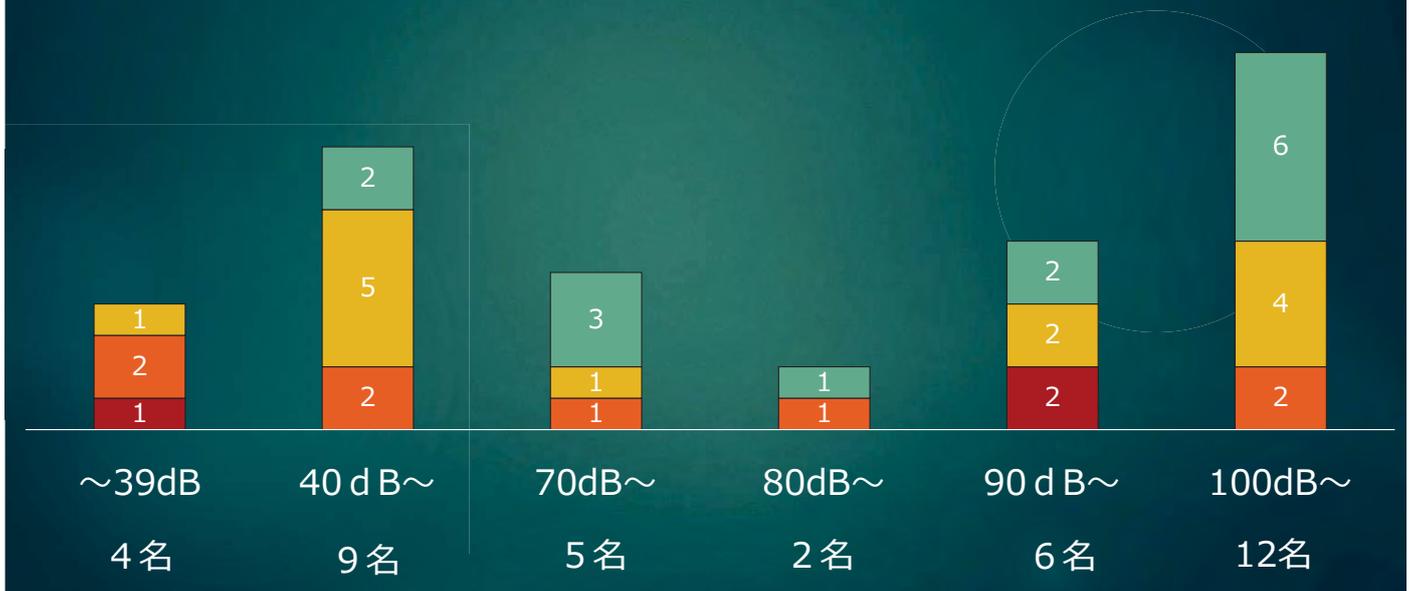
## 乳幼児教育相談 開始年齢 R2.3月現在

通室開始時期	人数
～6ヶ月	14
～1歳	16
～1歳半	6
～2歳	0
～3歳	2
～4歳	0



## 来室児の年齢別聴力レベル R2.3月現在

■ 0歳未満 ■ 0歳児 ■ 1歳児 ■ 2歳児



## 活動日程と主な内容

曜日	月	火	水	木	金
グループ	縦割り (0~2歳児)	うさぎ (2歳)	かえる (0歳)	うさぎ (2歳)	ひよこ (1歳)

### 主な活動内容

- 自由遊び
- 音遊び・歌遊び
- 名前呼び
- 絵本読み
- 設定遊び (制作・サーキット等)
- 個別指導 (月1~2回)
- 各行事 等

縦割りの活動では、週に1回、0歳児から2歳児までの保護者や子供達が交流できる活動を行っています。

## ①ホールでの自由遊び

朝学校に来たら「おはよう」と元気に挨拶をしながら玄関を開けます。子供達は、動物のマークシールとひらがなで名前の書いてある自分の靴箱に靴をしまします。

その後、教室にはいりリュックや帽子をフックにかけます。名札を保護者につけてもらい、手を洗います。

この後は、家で買ってもらった時計や誕生日プレゼント、学校に来る途中で摘んできた花など子供達は、大切なものをたくさん見せてくれることが多くあります。

準備が終わると、子供達はホールで遊びます。ままごとをしたり、三輪車に乗ったりしています。保護者と遊ぶこともありますが、2歳児グループになると友達と遊ぶ様子が多く見られます。

乳幼児相談の担当者は、この時間に保護者から

- 家庭での子供の様子
- 病院受診の結果
- 病院やデイサービスの言語訓練でのアドバイス

この朝の時間は、家庭や他機関での様子を保護者から聞く大切な時間になっています。

## ②歌遊び・ダンス

歌や踊りは、体を動かしリズムによって楽しむ時間です。音が聞こえる子供もあまり音を聴く環境がまだ整ってはいない難聴が分かったばかりの子供達も学校に来ています。目で見ても、聞いても楽しめるように工夫しています。

歌の内容は、手遊びの時には聾の教員のアドバイスをもらいながら手話を取り入れます。また、絵カードや写真カードで手掛かりを作っています。

また、伴奏もエレクトーンで演奏しながら、前奏を聞いて歌い始めたり、曲を聞いてリズムにのったりするというのも大切に扱っています。

踊りの時には、映像を見ながらみんなで踊るようにしています。保護者は、学校で踊った踊りを家でも一緒に踊って楽しむことが多いようです。

## ③名前よび・絵本

歌と踊りが終わると、2歳児グループはみんな親子でトイレに行きます。トイレトレーニングは、親子のコミュニケーションが必要です。家では、トイレにあまり行きたがらない子供も友達が行くと一緒にトイレに行くことができたり、パンツをはいてみたいと頑張ったりします。必要な時期に必要な言葉掛けがされることが大切だと思います。

トイレが終わると・・・

子供達は、自分の椅子をもってきて馬蹄形に座ります。他の友達がトイレが終わるまでの間は自由にお話をしています。

自分の名前カードを先生に渡します。  
名前を呼ばれると、返事をしてカードを受け取り黒板に貼ります。  
先生や友達とタッチをします。

タッチをする時間を大切にしています。友達をまったり、タッチをする前に目を合わせたりしている様子があります。先生や大人とタッチだけではなく友達とタッチをする時間は子供達一人一人にとって大切な時間だと考えています。

絵本は、活動の内容と合わせることができるときには、なるべくつながりができるようにしています。手話や音声を楽しむことができる時間です。

## ④ 設定遊び

設定遊びでは、季節を感じて親子がやり取りをしながら活動できるように考えています。体験を通して、また、自然の中から五感を使って学べる活動を大切に考えています。

ジャガイモほりをした時の出来事です。

学校でジャガイモ堀りの活動をしました。お母さまは、家で一緒に料理して、カレーを子供と一緒に食べました。その1日の活動は、きっと子供の心にも残っただろうと考えました。絵日記でその日のジャガイモほりの話をしたそうです。

「子供の心に残ったのは、カレー作りよりもジャガイモほりをする時に雨がたくさん降ってきてみんなで雨宿りをしたことだったんです。」というお話がありました。

私たちが意図的に作る活動よりも自然や季節など子供たちが感性を働かせて思うことは、とても大切にしたいと思った出来事でした。

## 2 校内連携 【乳幼児教育相談の役割の共有】

## 校内連携について

保護者からの相談の連絡

教頭

保護者へ電話での連絡

乳幼児教育相談担当

情報共有

乳幼児教育相談担当

初回相談

乳幼児教育相談担当

来校時挨拶

校長

グループ活動への参加

## 【研修会】

全校研修会：「乳幼児教育相談について」

全校授業研究会：「2歳児のグループ活動」

## 【会議】

○運営委員会：参加者（管理職・各学部主事・分掌部長）

「乳幼児教育相談からの連絡」

○特別支援委員会：参加者（教頭・各学部コーディネーター）

「初回相談について・入学予定者についての連絡」

○手話活用能力向上委員会（教頭・各学部主事）

「手話にかかわる情報提供の資料づくり」

乳幼児教育相談の活動を全校の先生が理解して学校の中で位置付けられている。

### 3 他機関との連携

#### 関係機関

##### 聾学校

北海道旭川聾学校  
北海道帯広聾学校  
北海道室蘭聾学校  
北海道函館聾学校  
北海道釧路鶴野支援学校  
北海道高等聾学校

##### 補聴器会社

岩崎電子補聴器センター  
さくら補聴器センター  
エクセア

北海道立特別支援教育センター  
北海道教育委員会

##### 病院（精密医療機関）

北海道大学病院  
札幌医科大学附属病院  
北海道立子ども総合医療・療育センター  
耳鼻咽喉科麻生病院  
厚別耳鼻咽喉科病院  
とも耳鼻科クリニック 他

##### 北海道札幌聾学校

##### きこえの教室

札幌市立中央小学校 きこえの教室  
札幌市立幌北小学校 きこえの教室  
札幌市立南郷小学校 きこえの教室  
札幌市立元町小学校 きこえの教室

##### 人工内耳各社

発達支援センター  
石狩管内、空知管内、後志管内

##### デイサービス

かすたねっと  
ふくろう  
かがやき 他

##### 保健センター

札幌市内各保健センター  
石狩管内  
空知管内  
後志管内

# 北海道聴覚障害乳幼児療育事業

(昭和63年度～)

北海道独自の事業

北海道 保健福祉部の予算を教育委員会が補助執行

関係機関訪問のための旅費

時間講師配置の報償費等

乳幼児教育相談の取組が充実

## 関係機関訪問 4月～5月実施

医療機関	保健センター・発達支援センター	補聴器会社
<ul style="list-style-type: none"><li>・パンフレット</li><li>・ポスター</li><li>・学校の状況 (聴力・補聴器内耳の割合・全校数など)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・パンフレット</li><li>・ポスター</li><li>・乳幼児相談室のしおり</li><li>・乳幼児相談の活動の動画 (3分)</li><li>・難聴体験と補聴器体験</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・パンフレット</li><li>・ポスター</li></ul>

## 連絡ノート

お父さん

病院

デイサービス

発達支援センター

保育園

保護者が子供について伝えたい場所で見せることができる。

- ①活動中の子供の写真をたくさん貼る。
- ②個別指導で行っている内容やアドバイスを書く。
- ③子供ができるようになった記念日を残す。

## 新生児聴覚スクリーニングへの助成

北海道では、新生児聴覚スクリーニングを受けている件数が8割に満たなかった。

今年度4月より札幌市で助成が始まる。

### 北海道内での課題

- ・出生数の多い市で助成が実施されていない地域がまだ多くある。
- ・新スクでリファアになった子供の保護者へのフォロー。

## 今後の課題：新スクリファ―後からのフォロー

新生児聴覚スクリーニング  
(生後3日以内)

確認検査  
(生後1週間以内)

精密検査  
(3か月までに実施)

早期療育  
(6ヶ月までに開始)

「新生児聴覚スクリーニングマニュアル」：一般社団法人 日本耳鼻咽喉科学会  
スクリーニングから精密検査まで 全体の流れ 参照

## 4 本校の乳幼児教育相談の特徴的な取組

## ①ろう教員の配置

### ○手話講座

保護者が伝えたいけれどなかなか難しいという話を聞きながら、内容を決めて講座を行っている。

例) 「おやつはいらない」  
「おやつではない」

### ○休校期間に作成したDVD

本校では、ろう教員が昨年度より配置されました。ろう教員は、ろう・難聴児のロールモデルとしての役割も果たしています。ろう教員の小さなころの話や保育園に通っていた時の気持ちなど当事者としてどのように思うかを質問される保護者が多くいます。

## ②保護者交流

幼稚部の  
保護者

地域の幼稚園に  
通わせる保護者

小学部中学部の  
保護者



乳幼児教育相談  
(同年齢・異年齢)



卒業生の保護者

※こんな時に保護者交流を行っています。

- 難聴が分かったばかりの時
- 補聴器を装用することになった時
- 人工内耳を検討して悩んでいる時
- 地域の幼稚園に行くか、幼稚部に入学するか迷っている時
- 言語についてどのように伸ばしていいか悩む時

### ③耳鼻科相談日

- ▶ 月に1回北海道大学病院より耳鼻科医に来校いただける日がある。

紹介いただいた子供についての情報交換

本校在籍の子供についての経過観察の確認

保護者からの相談

本校在籍の子供や乳幼児教育相談に通う  
子供の活動の様子を動画で見えていただく。

# 実践報告

～新生児聴覚スクリーニングからの切れ目のない支援を目指して～



大塚本校



城東分教室



城南分教室



永福分教室

## 東京都立大塚ろう学校

### 1. 東京都立大塚ろう学校の基本情報

■4つのキャンパスを有し、幼稚部・小学部を設置している。



#### 《大塚本校》

豊島区

- ・乳幼児教育相談
- ・幼稚部
- ・小学部



#### 《城東分教室》

江東区

- ・乳幼児教育相談
- ・幼稚部
- ・小学部



#### 《城南分教室》

大田区

- ・乳幼児教育相談
- ・幼稚部



#### 《永福分教室》

杉並区

- ・乳幼児教育相談
- ・幼稚部
- ・小学部

東京都立大塚ろう学校

## 1-(1) 乳幼児教育相談担当について

### ■正規教員



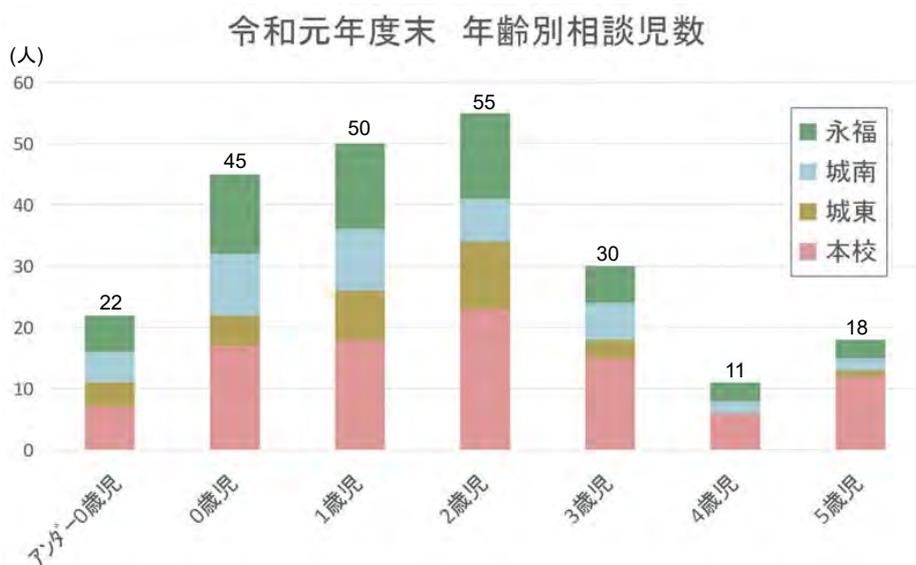
### ■非常勤教員

#### ■早期教育相談員(外部専門家)

- ・言語聴覚士
- ・元ろう学校教員
- ・成人ろう者(ロールモデル)

東京都立大塚ろう学校

## 1-(2) 相談児数(令和元年度末)



永福59人

城南42人

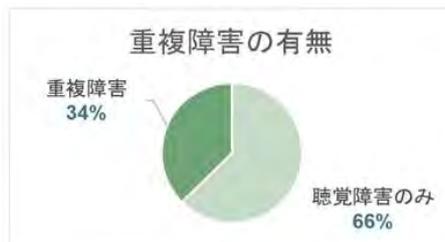
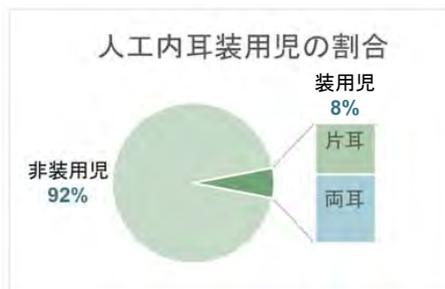
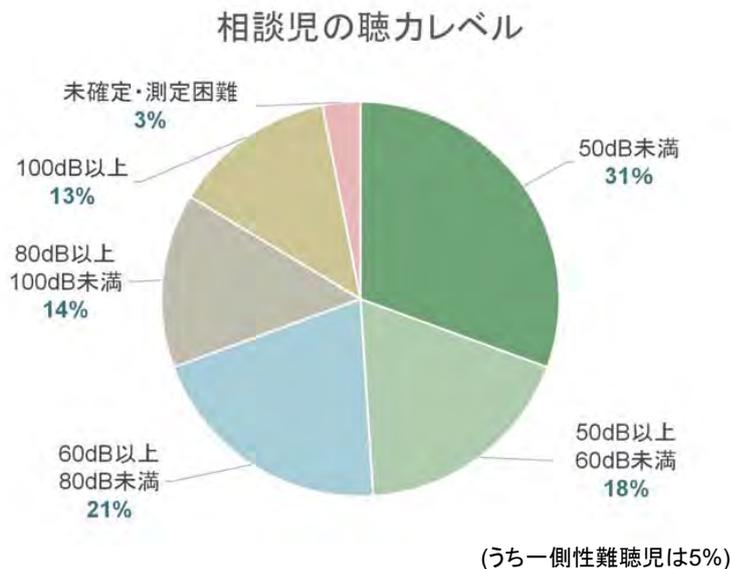
城東32人

本校98人

合計 **231** 人

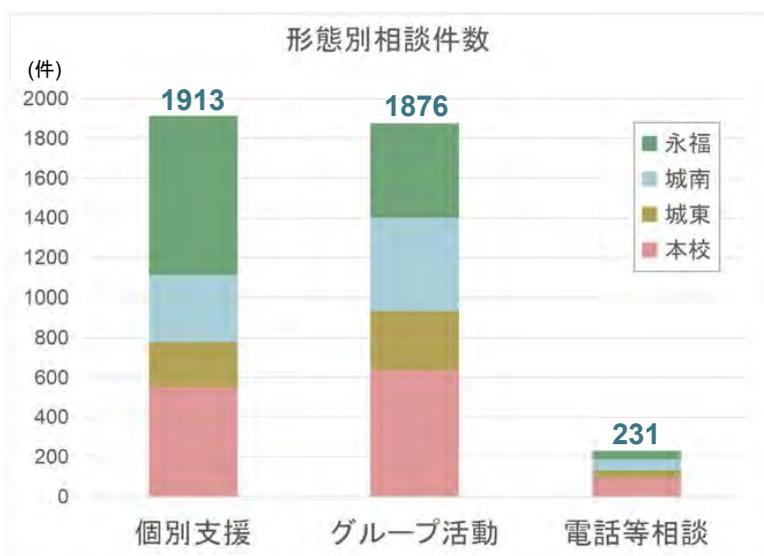
東京都立大塚ろう学校

## 1-(3) 相談児の聴カレベル(令和元年度末)



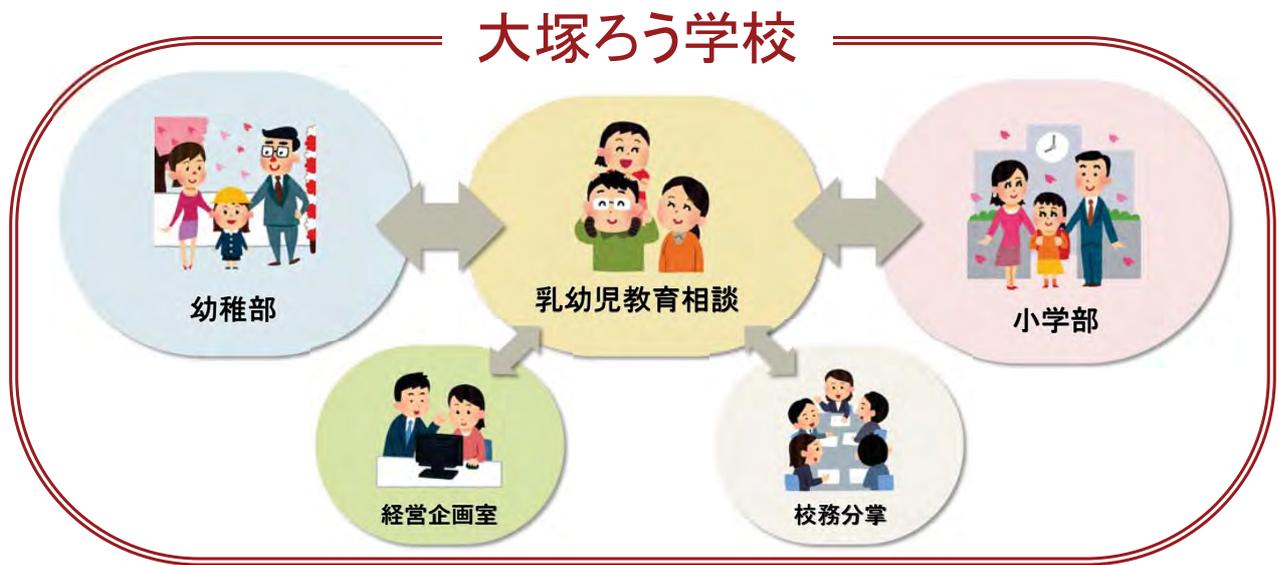
東京都立大塚ろう学校

## 【参考資料】相談件数等(令和元年度末)



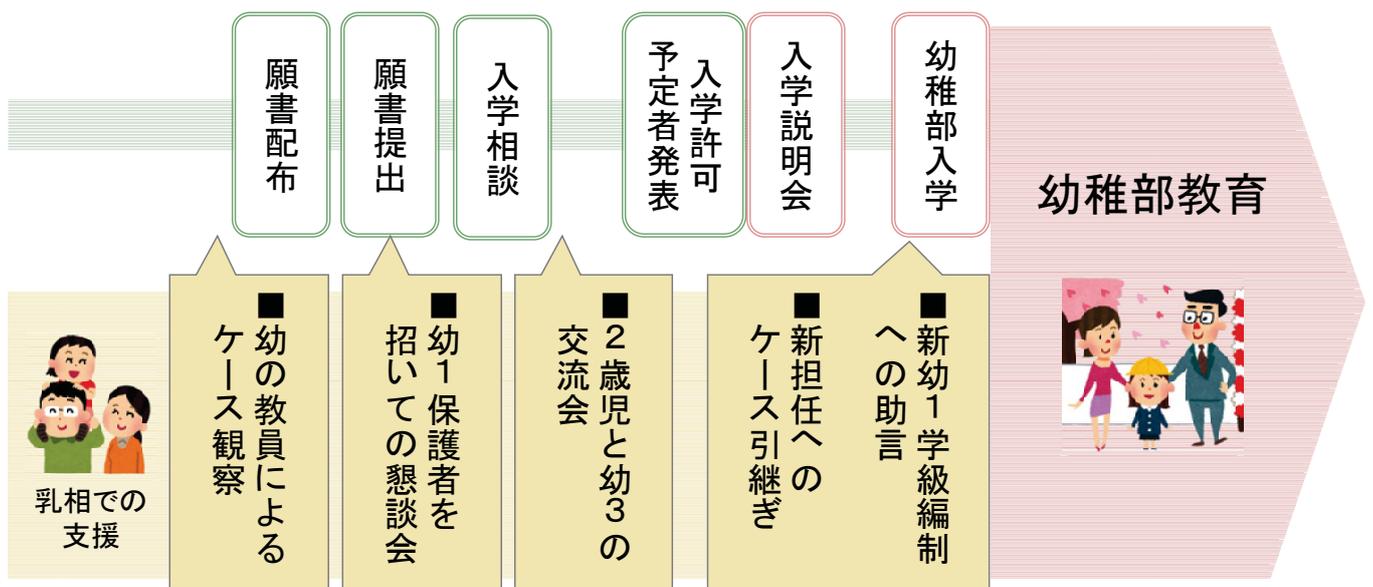
東京都立大塚ろう学校

## 2. 校内における連携



東京都立大塚ろう学校

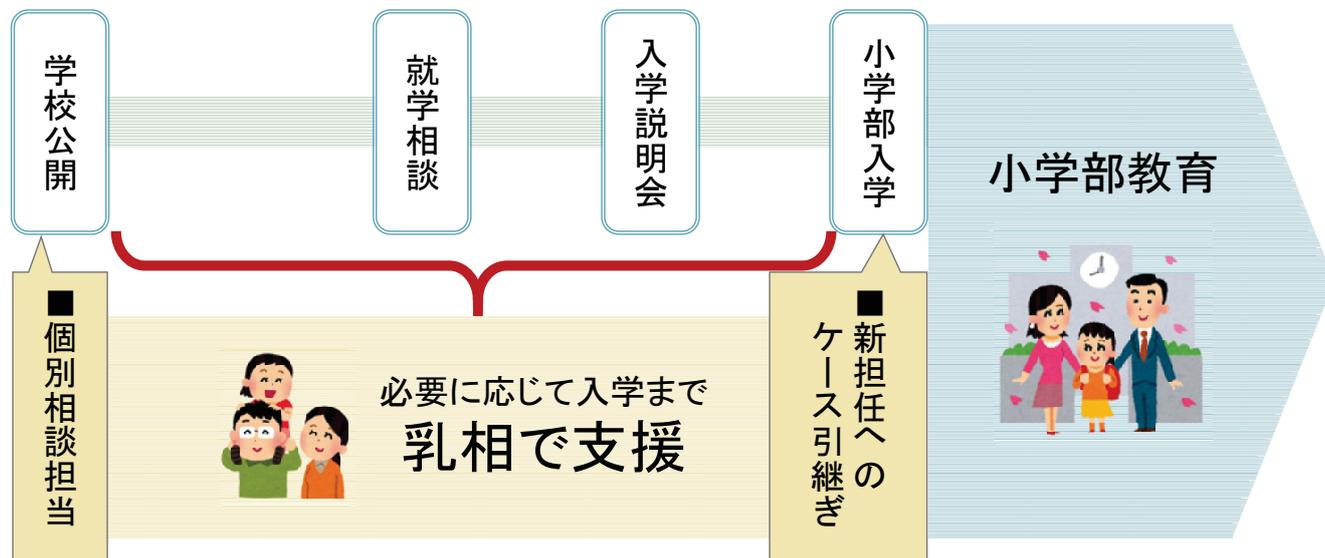
### 2-(1) 幼稚部との連携～円滑な幼稚部教育開始に向けて～



東京都立大塚ろう学校

## 2-(2) 小学部との連携～円滑な小学部教育開始に向けて～

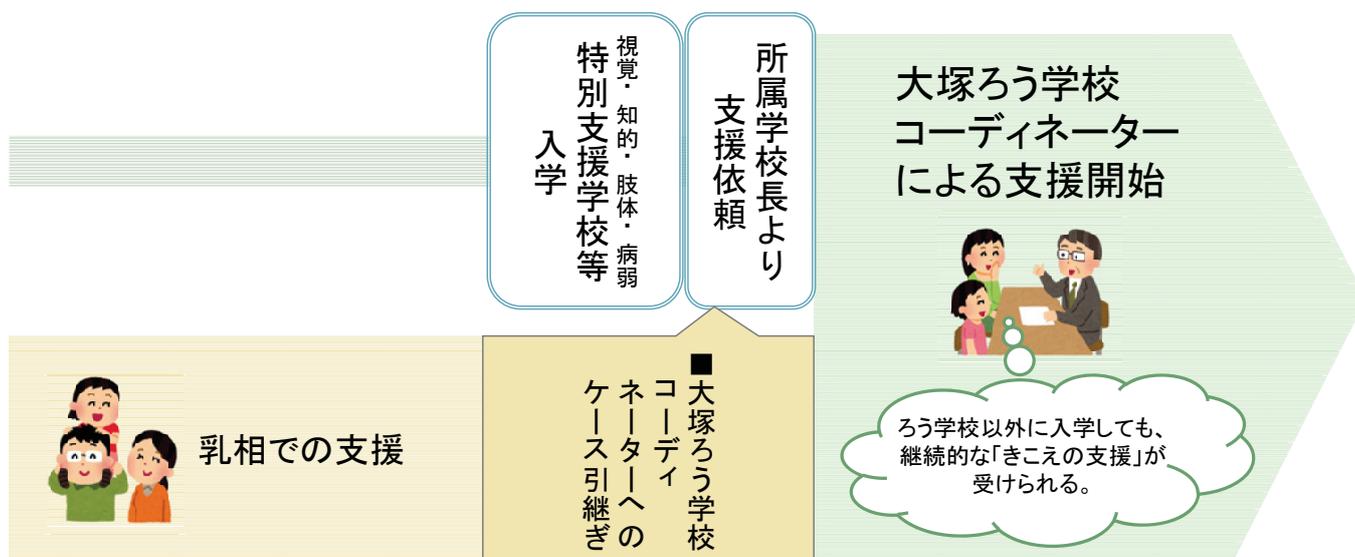
■外部から大塚ろう学校小学部に入学する幼児の例



東京都立大塚ろう学校

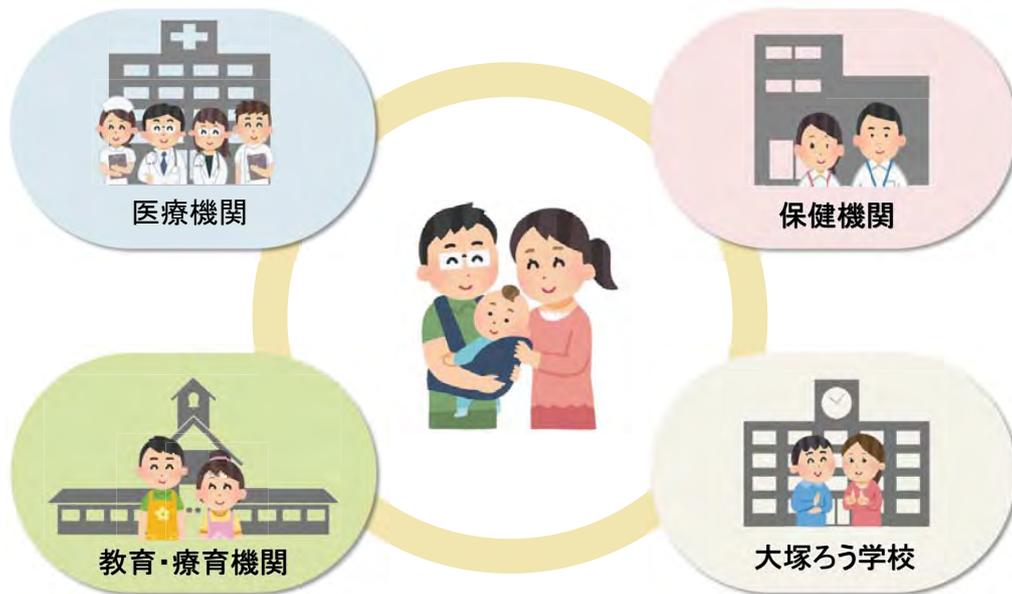
## 2-(3) コーディネーターとの連携～他障害を併せ有するお子さんの支援～

■特別支援学校等に入学し「きこえの支援」を受ける場合の例



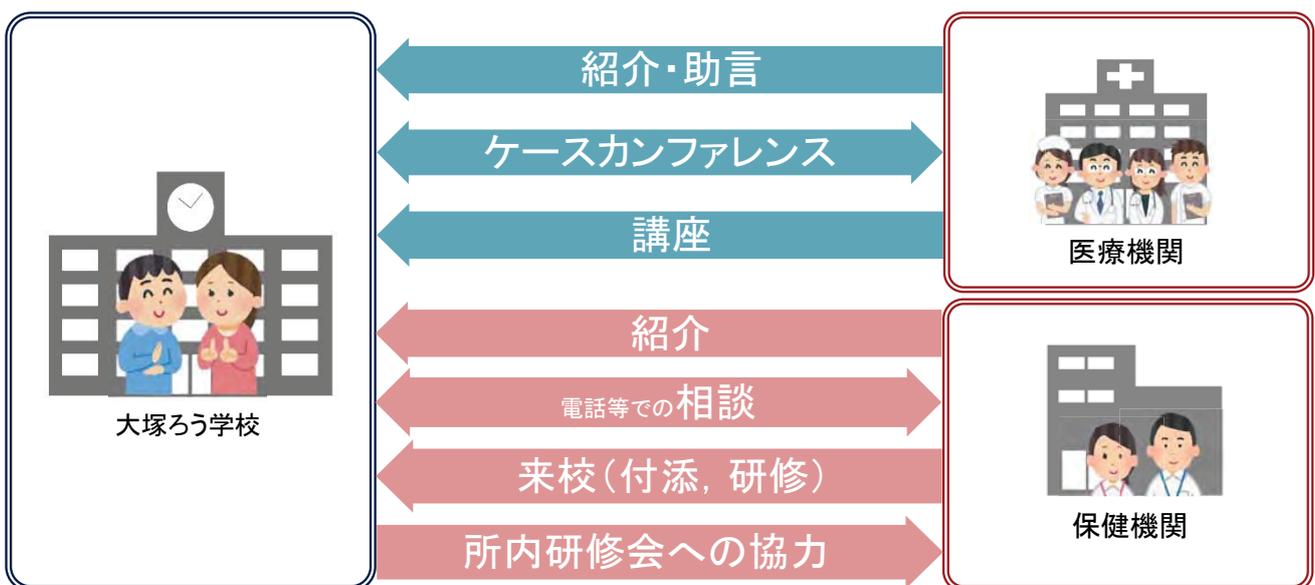
東京都立大塚ろう学校

### 3. 他機関との連携



東京都立大塚ろう学校

#### 3-(1) 医療・保健機関との連携



東京都立大塚ろう学校

## 3-(1) 医療・保健機関との連携

特色

主に保健師対象 「関連機関研修会」



《令和2年度実績》

- 令和2年11月12日
- 大塚ろう学校・本校にて実施
- 内容

□ 講演「新生児聴覚スクリーニング

—これはスタートライン、そしてシークエンスが重要！—

講師：東京北医療センター耳鼻咽喉科 医師 森田訓子先生

□ 学校見学

□ 協議会(各地域の支援状況や乳幼児聴覚健診について等)



東京都立大塚ろう学校

特色

主に保健師対象 「関連機関研修会」



校内見学で、ろう学校ではどのように教育をされているかが分かった。他の保健師にもこの研修を勧めたい。

ろう学校を初めて見学したが、明るく、とても雰囲気良かった。必要な方に御案内したい。

～参加者の感想より～

協議会では、他の自治体のきこえの支援に関する現状を知ることができ、良かった。



新スクや難聴児の現状について改めて正しい情報を得られ、理解を深めることができた。知識を活かして保護者支援をしていきたい。

新スクでパスの方については、今まであまり注目していなかったが、どの年齢でも「きこえは大丈夫？」と意識しながらかわるの大切さを学んだ。

新スクがパスでも難聴の可能性があるので、少しでも聞こえ方に心配がある際には、精密検査機関・相談機関へつなげることを念頭に支援をしていきたいと感じた。

## 3-(1) 医療・保健機関との連携

成果

### 新生児訪問で連携が活かされた例



【0か月】新生児聴覚スクリーニング

→一側パス・一側リファー

【1か月】新生児訪問指導

→担当保健師より本校乳幼児教育相談を紹介される。

【2か月】精密検査機関受診・本校での相談開始

【3か月】確定診断

- 新生児訪問で紹介されたことにより、円滑な早期支援開始につながった。
- 確定診断前から相談・保護者講座を受けられたことで、父母をはじめ祖父母も含めた「家族全員での子育て」をしていこうとする土壌の早期形成につながった。

東京都立大塚ろう学校

## 3-(1) 医療・保健機関との連携

### 保健所内研修会への協力

《実績》

### 「板橋区新生児訪問指導事業における訪問指導員等研修」

■令和元年8月5日実施

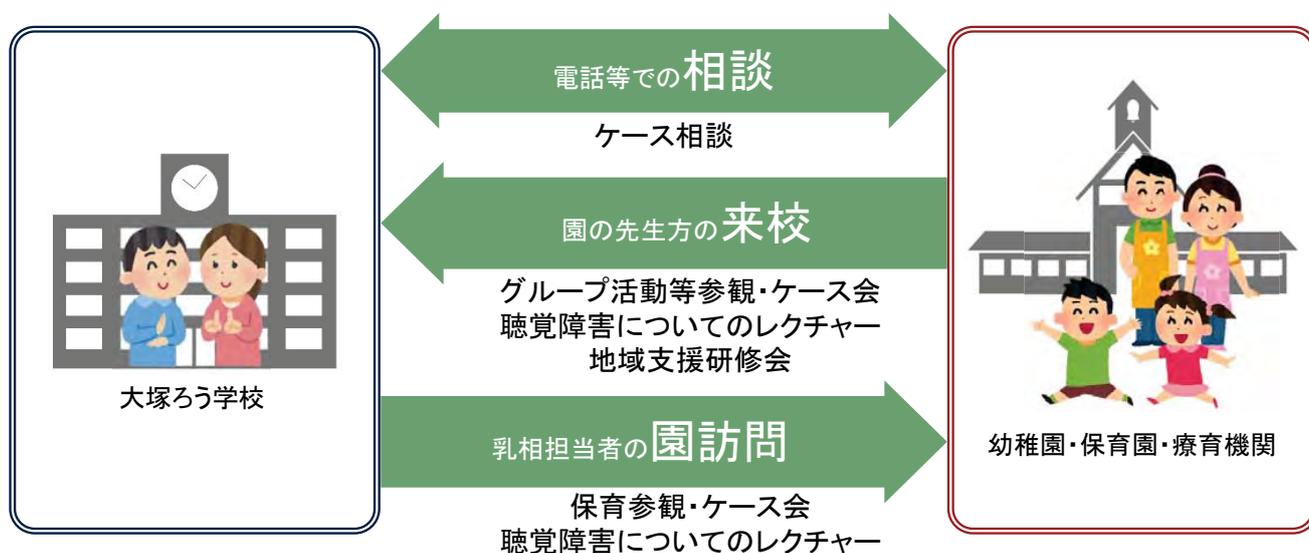
- 内容(抜粋) 【第1部】
- 聴覚障害に特異的に早期支援介入・早期教育開始が必要な理由
  - 新生児訪問における「きこえ」に関する支援の具体的ポイント
  - 教育分野の関連機関へのつなぎ方
  - 大塚ろう学校乳幼児教育相談での具体的な支援
  - 「きこえ」の支援の中で気をつけたい言葉

- 【第2部】
- 新生児訪問の場面でのロールプレイ(3パターン)
  - 継続的な「きこえ」へのサポートについて
  - 乳幼児教育相談にご紹介いただく際のワンポイント



東京都立大塚ろう学校

## 3-(2) 教育・保育・療育機関との連携



「聴覚障害についての正しい知識・理解」と「難聴児への適切且つ合理的な配慮」について共通理解を図る。

東京都立大塚ろう学校

## 3-(2) 教育・保育・療育機関との連携

特色

主に園の先生方対象「地域支援研修会」



《令和元年度実績》

■令和元年9月20日 ■大塚ろう学校本校にて実施

■参加者:39名

■内容

校内見学

講演「地域の園に通う難聴児への支援」

講師:関根 久美子先生(言語聴覚士・本校早期教育相談員)

質疑応答

情報交換会

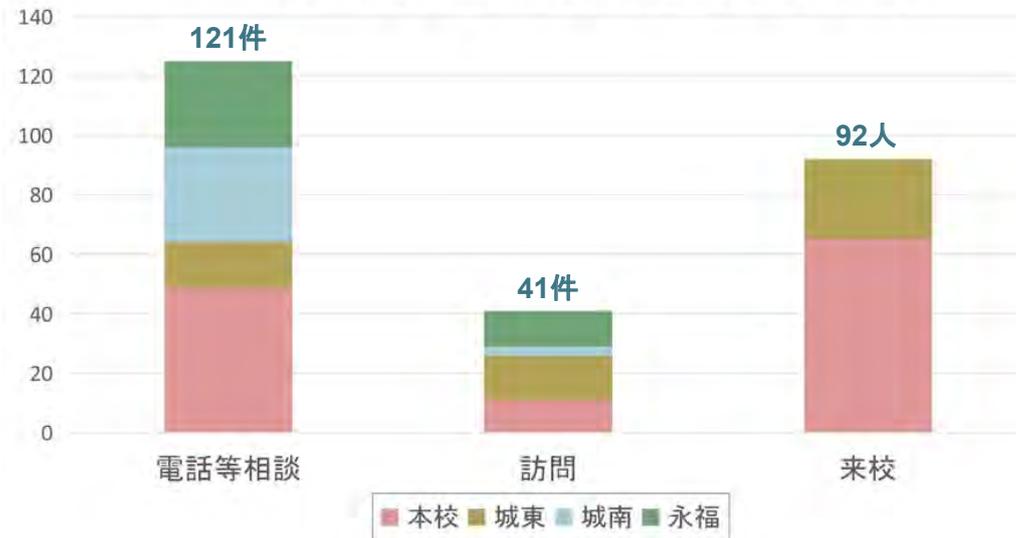


今年度:令和3年2月15日実施予定

東京都立大塚ろう学校

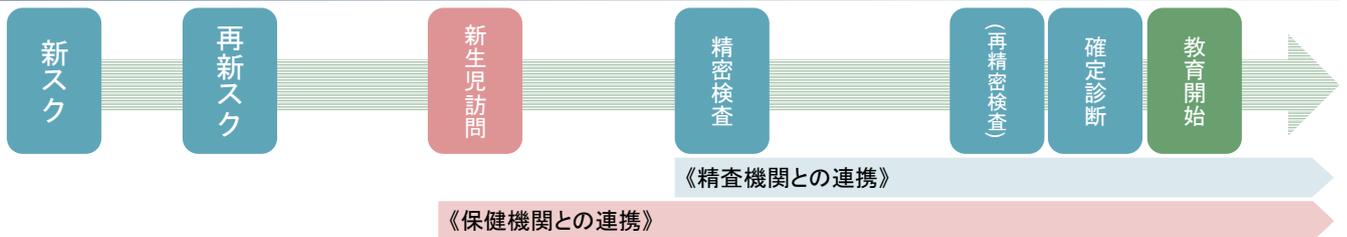
## 【参考資料】他機関との連携実績(令和元年度末)

令和元年度 他機関との連携件数・人数



東京都立大塚ろう学校

### 4-(1)学校の課題



#### 保護者の声より



「耳に羊水がたまっているのかも」という言葉をそのまま信じてしまっていた。

「検査が上手にできなかった」と、何度も再検査をした。「上手にできなかった」という言葉に期待をもってしまったことが、後々つらかった。

「この検査はリファーでも聞こえていることが多いから大丈夫」と言われたため、期待をもってしまい、かえってつらかった。

「リファー」という初めてきく言葉、その意味も分からず、1か月健診の再検査を待つ間、ずっともやもやした気持ちだった。

東京都立大塚ろう学校

## 4-(1)学校の課題

### 保護者の声より



「耳に羊水がたまっているのかも」という言葉をそのまま信じてしまっていた。

「検査が上手にできなかった」と、何度も再検査をした。「上手にできなかった」という言葉に期待をもってしまったことが、後々つらかった。

「この検査はリファアでも聞こえていることが多いから大丈夫」と言われたため、期待をもってしまい、かえってつらかった。

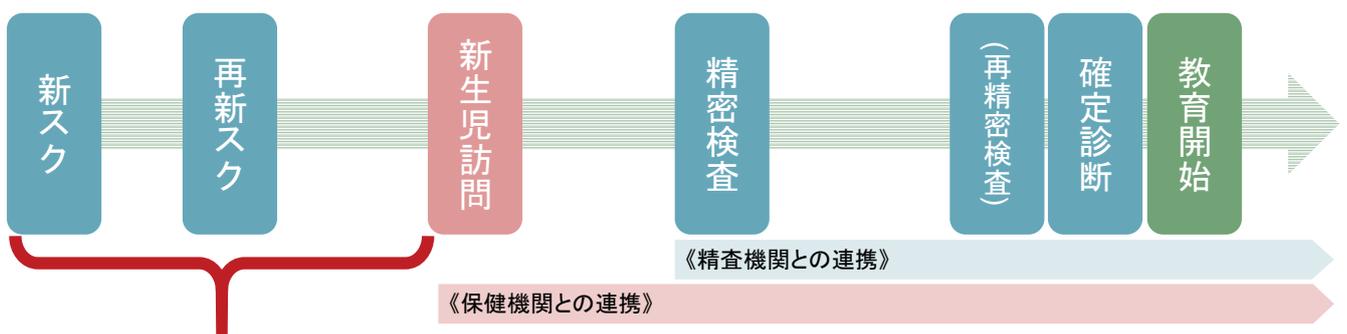
「リファア」という初めてきく言葉、その意味も分からず、1か月健診の再検査を待つ間、ずっともやもやした気持ちだった。

不安・期待・信じたい気持ち・もやもやとした気持ち

「あいまいな状況」におかれた保護者に寄り添う支援が必要

東京都立大塚ろう学校

## 4-(2)学校の取組～新スクからの切れ目のない保護者支援を目指して～

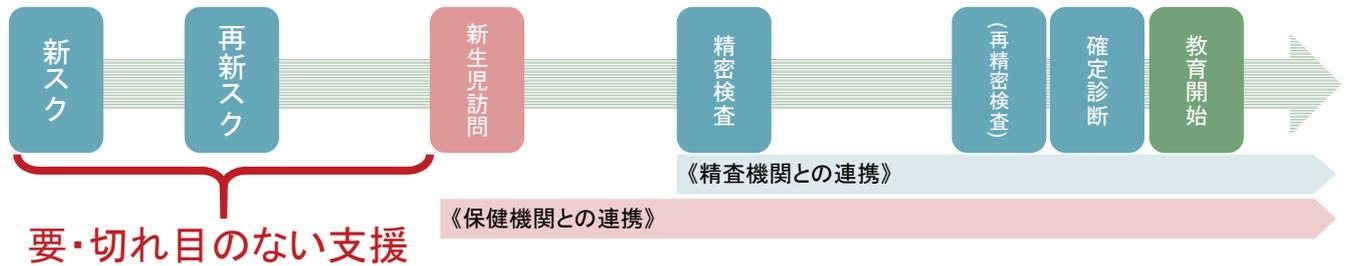


要・切れ目のない支援

《新スク実施分娩取扱医療機関との連携》

東京都立大塚ろう学校

## 4-(2)学校の取組～新スクからの切れ目のない保護者支援を目指して～



### 《新スク実施分娩取扱医療機関との連携》

⇒リーフレット「赤ちゃんのおみみのそうだん」を作成

- \*「東京都内の新生児聴覚検査の実施医療機関リスト」に掲載されている近隣の分娩取扱機関への配置を目指す。

東京都立大塚ろう学校

## 4-(3)学校の取組～リーフレット作成～

### リーフレット「赤ちゃんのおみみのそうだん」

#### ■対象

- \* 新スク・リファアとなったお子さんの御家族

- \* 新スク実施担当 助産師・看護師

→御家族への説明の際に、活用していただくことを目指して。

#### ■作成にあたって

- 情報の精選
- 文言の吟味
- 保護者の「今知りたいこと」を簡潔に正しく
- 直接的な支援に繋がるように



東京都立大塚ろう学校

# 4-(3)学校の取組～リーフレット作成～

## 中面①

■リーフレット作成の目的

■新スクについての簡潔な説明



■中面への誘導

東京都立大塚ろう学校

# 4-(3)学校の取組～リーフレット作成～

## 中面②

リファ  
とは

精密検査  
とは

保護者の  
声より

「今」  
すべきこと

**リファってどういう意味なの？**  
「きこえ」にサポートが必要だと決まったわけではなく、今回の検査では反応ありとならなかったのでもう一度検査をしよう」とが「詳しい検査をしてみよう」という意味なのです。

**「詳しい検査」ってどんなことをするの？**  
どんな検査なの？  
赤ちゃんを眠らせて脳波の反応を調べる検査(ABR, ASSR)等を行います。音への反応の成長を待つ、間隔をおいて何回か検査を必要とすることもあります。(生後1～3か月頃が多いです。)

どこで受けられるの？  
新生児聴覚スクリーニングを受けた病院の先生や自治体の保健師さんから、専門の耳鼻科医がいる精密検査機関を紹介していただき、予約をとりましょう。大切な検査ですから、必ず受けに行きましょう。

**詳しい検査を待つ間、今すぐにでもしてあげられることは なに？**  
今、大切なこと…  
詳しい検査を待つ生後0～3か月の間というのは、赤ちゃんが、自分是被らされていることを知り、ママ・パパを求め、信頼し、人とかわる力の土台をつくり始めるとても重要な時期です。  
今、最も大切なのは、目の前の赤ちゃんに、生まれてきた喜びを存分に感じさせてあげることなのです。

**赤ちゃんの気持ちを満たしてあげて**  
赤ちゃんは泣くことが自分の気持ちを表す手段です。赤ちゃんが泣いたら「どうしたの？」「おなかがすいたかな？」等と話しかけましょう。赤ちゃんの気持ちが満たされたら「おなかがいっぱいだね」等、赤ちゃんの思いを言葉にしてあげましょう。

**一人や家族だけで抱えないで**  
「ひよこくみ」では生後すぐから、赤ちゃんのお耳の相談ができます。里帰り出産で、海外にいらっしゃる場合の相談もお受けしています。  
**ささいなことでも遠慮なくご連絡ください**

**ママ・パパの声より**  
生後3日目に受けたお耳の検査、初めて聞いた「リファ」という言葉に、不安がつつの、精密検査を待つ間でも相談できる「ひよこくみ」で話を聞いてもらいました。リファの意味を丁寧に分かりやすく説明してもらったり、今、我が子にしてあげられることを具体的に教えてもらったので、気持ちが落ちました。

**穏やかな愛情でつつんで**  
嬉しく微笑みかけて たっぷり抱っこして  
たくさんのスキンシップで赤ちゃんに心地よさを味わわせてあげましょう。ママ・パパの笑顔は赤ちゃんを幸せな気持ちにし、心を安定させてあげられます。

**通じたという経験をたくさんさせてあげて**  
目と目を合わせて表情や声を喜ばせて  
赤ちゃんが出す声や表情に対して、ママ・パパは「分かったよ」ということや、可愛らしいと思う気持ちを伝えてあげましょう。このようなやりとりがコミュニケーションの力の土台となります。

東京都立大塚ろう学校

## 4-(3)学校の取組～リーフレット作成～

### 中面②

リファア  
とは

精密検査  
とは

保護者の  
声より

「今」  
すべきこと

**☆ 今、大切なこと…**

詳しい検査を待つ生後0～3か月の間  
というのは、赤ちゃんが、自分は愛されて  
いることを知り、ママ・パパを求め、信頼し、  
人とかかわる力の土台をつくり始めるとも  
重要な時期です。

今、最も大切なのは、目の前の赤ちゃん  
に、生まれてきた喜びを存分に感じさせて  
あげることなのです。

**ママ・パパの声より**

生後3日目に受けたお耳の検査、初  
めてきた「リファア」という言葉に、不安が  
つづいた「ひよこぐみ」で話を聞いてもらいました。  
リファアの意味を丁寧に分かりやすく説  
明してもらった。今、我が子にしてあげら  
れることを具体的に教えてもらった。心  
持ちが落ちました。

一人や家族だけで  
抱えないで

「ひよこぐみ」では生後すぐから、赤ちゃんの  
お耳の相談ができます。里帰り出産で、都外  
にいらっしゃる場合の相談もお受けしています。  
ささいなことでも  
遠慮なくご連絡ください

東京都立大塚ろう学校

## 4-(3)学校の取組～リーフレット作成～

### 裏表紙

赤ちゃんのおみみのおさだめ  
耳の聞こえを確認する **ひよこぐみ**

**相談の流れ (見通しを示す)**

1. 相談  
2. 相談  
3. 相談  
4. 相談

まずは電話・メール・アクションのいずれかで、  
届いた「ひよこぐみ」までご連絡ください。  
電話・メール・アクション(予約制)など、ご家庭の  
都合に合わせて方法で相談できます。

「ひよこぐみ」  
って、どんな検査なの？ 「詳しい検査はいつ  
やるの？」  
今やっても  
いいの？  
「ささいなことでも遠慮なく  
ご連絡ください。」

希望される方は、継続的な相談が受けられます。  
ひよこぐみは、多くの学びと出会いの機会をもち、  
保護者の皆様と肩にお子さんの成長を支援します。

**東京都立大塚ろう学校**

<b>大塚本校</b> 〒170-0002 東京都豊島区東横 4-20-8 電話：03-3918-3347 7ヶ月～11月：03-3918-2354	<b>城東支校</b> 〒136-0072 東京都江東区大島 6-7-3 電話：03-3685-9100 7ヶ月～11月：03-3682-2159
<b>城南支校</b> 〒144-0046 東京都大田区東六甲 2-18-19 電話：03-5710-3043 7ヶ月～11月：03-5710-3045	<b>永福支校</b> 〒168-0064 東京都杉並区永福 1-7-28 電話：03-3323-8376 7ヶ月～11月：03-5376-2139

月～金 9:00～17:00  
\* 休日・お盆休み・相談休校日・休校日・年末年始を除きます。  
\* 前日のお電話予約の受付は、連絡先電話番号に限り、24時間受付いたします。

相談の流れ  
(見通しを示す)

連絡先  
対応時間

東京都立大塚ろう学校

## 4-(4)学校の取組～信頼につなげるために～



「初回の」直接的な支援に際して

- 経営企画室職員
- 教員・講師
- 早期教育相談員
- 誰もが初回連絡を受ける可能性がある。

- 学校をあげて相談児・保護者を温かく迎える。**
- 校内連携
- ・乳相について校内教職員の認知度を高める。

東京都立大塚ろう学校

## 4-(4)学校の取組～信頼につなげるために～

学校ホームページの  
トップページ

乳相ページへ  
容易にアクセス可能  
\* サイドメニューにバナーを設置



きこえの御相談は [こちら](#)

生後0か月～就学前「乳幼児教育相談」



東京都立大塚ろう学校

## 4-(4)学校の取組～信頼につなげるために～

4キャンパス共通  
乳相トップページ

リーフレットとの統一感



東京都立大塚ろう学校

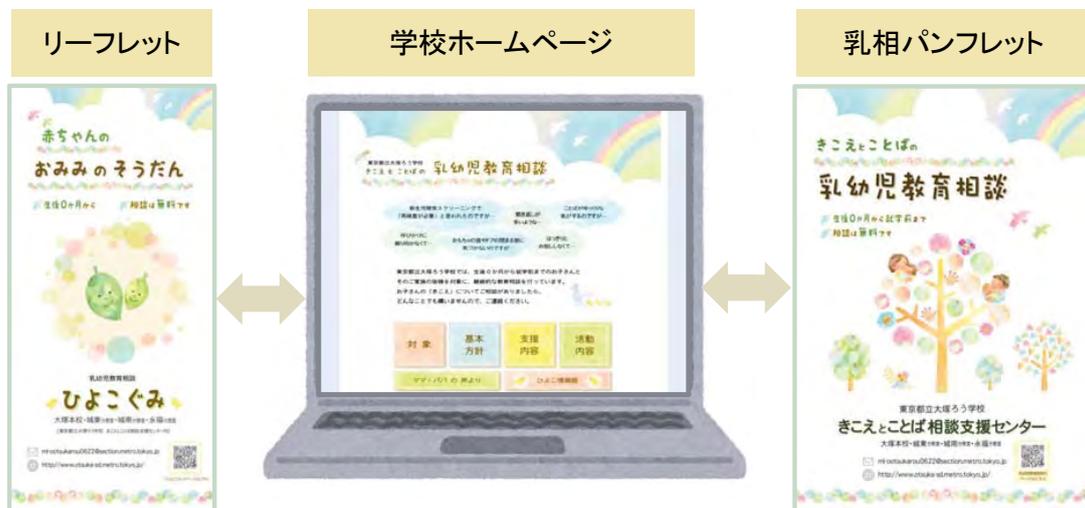
## 4-(4)学校の取組～信頼につなげるために～

《参考》4キャンパス共通乳相パンフレット



東京都立大塚ろう学校

## 4-(4)学校の取組～信頼につなげるために～



各媒体の接続を大切に・全媒体のコンセプトに一貫性を→**安心感・信頼**

東京都立大塚ろう学校

## 4-(5)今後の課題



東京都立大塚ろう学校

## 4-(5)今後の課題

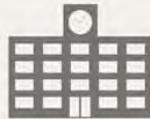
大塚校乳相として  
一貫した方針での  
支援

- 4キャンパス間連携
- 早期教育相談員との連携  
→正規・非正規に関わらず  
担当の言動は  
「大塚の先生が・・・」と  
なることを意識する。
- 関連機関への方針アピール

各担当者の  
保護者支援スキル  
向上

校内連携  
→学校をあげて相談児・  
保護者を温かく迎える  
雰囲気づくり

直接的な支援の  
質の維持・向上



後継の育成  
→異動等の影響を  
最小限に  
→都立ろう学校全体の  
課題でもある

東京都立大塚ろう学校

# ありがとうございました



大塚本校



城東分教室



城南分教室



永福分教室

## 東京都立大塚ろう学校

# 大阪府立生野聴覚支援学校 早期教育相談の現状について

～令和2年度難聴児の切れ目ない支援体制構築と更なる支援の推進に向けた全国研修会～

大阪府立生野聴覚支援学校

1

## 大阪府立生野聴覚支援学校の紹介



早期教育相談(0～2歳児)	41名
---------------	-----

学部	在籍児
幼稚部(3歳～5歳児)	43名
小学部(1年～6年)	56名
中学部(1年～3年)	25名

2

# 本校の校区

▲ 聴覚支援学校

● ぴよんぴよん教室(5教室)

(株)ベストケア・パートナーズ  
なないろ

大阪府立中央聴覚支援学校

ゆうなぎ園

大阪府立堺聴覚支援学校

大阪府立生野聴覚支援学校

通学区域

調整区域

大阪府立だいせん聴覚高等支援学校

3

## 大阪府における療育・教育体制の変遷

1992年(H4年)～ 20年間

大阪府

大阪府障害児療育等支援事業  
府福祉部が社会福祉法人  
肢体不自由者協会へ委託

ぴよんぴよん教室  
寝屋川、泉北、吹田、池田、  
岸和田 の5か所

共同事業

大阪府立聴覚支援学校内  
に2か所  
生野ぴよんぴよん教室  
堺ぴよんぴよん教室

2012年(H24)

大阪府

経過措置

ぴよんぴよん教室  
寝屋川、泉北、  
吹田、池田、岸  
和田

教育委員会事業  
生野校  
ぴよぴよ教室  
堺校  
あいあい教室

2013年(H25年)～

市町村の事業へ移管

大阪府が指定する  
肢体不自由者協会の  
児童通所支援事業へ

市町村が受  
給証を発行

ぴよんぴよん教室  
寝屋川教室、泉北教室、  
河内長野教室、北摂教室、熊取  
教室(現在は岸和田) の5教室

生野聴覚支援学校内  
生野聴覚言語支援センター  
(I-DIC)  
堺聴覚支援学校内  
堺聴覚支援センター

4

## I-DIC(生野聴覚言語支援センター)

- ▶ コンサルティング部門
  - ・市町村福祉との連携、コーディネイト(支援機関や相談機関への紹介)
  - ・アセスメント(聴力測定、言語発達検査、「個別の指導計画」等の作成助言)
- ▶ 地域相談支援部門
  - ・教育相談(初回)、**子育て講座**や専門研修会の開催、研修会等への講師派遣、保育所・幼稚園・小中学校・高校への支援など
- ▶ 専門的指導支援部門
  - ・個別支援(聴力測定や言語発達検査後の支援)
  - ・学習支援
    - ちよちよ組(幼稚園・保育所に通う3～5歳の軽中等度難聴児)
    - こっこ組(重複障がいのある3～5歳の聴覚障がい児)
    - 通級指導教室(小・中学校に在籍する難聴児)
- ▶ 校内支援部門
  - ・校内に在籍する幼児・児童・生徒を対象に、必要に応じて、発達検査やケース会議を実施

5

## 子育て講座(早期教育相談)の主な内容

- ① 聴覚に関する相談
  - ・新生児聴覚検査に関する相談、聴力測定、医療機関と連携し補聴器の適合等
  - ・オーディオグラムの見方、聴力低下の防止、身障者手帳・手当・補聴器支給申請などの手続き
  - ・聴覚活用を促す配慮、方法(環境、音や歌、ことばの聴かせ方、難聴疑似体験など)
- ② 発達に関する相談
  - ・聴覚障がいの受容、心身の発達・社会性などの発達
  - 生活リズム(食事、排泄、睡眠)、トイレ、栄養、発達検査
  - ・育児や躰についての支援、子どもの発達を促す遊びや絵本、教材の紹介と効果的な使い方など
  - ・他の障がいに配慮した支援(重複障がいの難聴児への支援)
  - ・医療機関・他の指導機関への紹介
  - ・保護者同士の交流、先輩保護者からの話など
- ③ 教育環境に関する相談
  - ・各市町村の医療・福祉・訓練機関の情報収集、情報提供、連携
  - ・家庭の子育て環境・通学支援等の調整、健聴児との交流・環境づくり

6

## 子育て講座(早期教育相談)の主な内容

### ④言語・コミュニケーションに関する相談

- ・親子関係、通じ合い、遊びを通じたやりとり、聞こえに配慮した表現の工夫
- ・コミュニケーションの配慮（絵カード、絵日記、補助機器など）
- ・伝達手段の学習（手話・キューサインなど）

### ⑤就学・進路についての相談

- ・個々の実態やニーズに即した教育目標の設定、就学・進路に関する情報提供

### ⑥情報の発信・啓発活動

- ・講座（夏の子育て講座等）の開催
- ・医療、保健、福祉機関（病院、保健センター、療育機関、保育所等）との連携

### ⑦支援員の派遣

- ・保育所や幼稚園への訪問、研修講座の講師など

7

## 1. 来室児数・スタッフの体制

### ○令和2年度(2020年度) \*10月現在

・子育て講座参加者数	2歳児	1歳児	0歳児	新生児
	16名	12名	10名	3名

・教育相談件数(保護者・保健センター・保育園 等) 37件

<スタッフの体制> 常勤2名・非常勤1名 \*初回教育相談は幼稚部教員1名が兼任

### ○令和元年度(2019年度)

・子育て講座参加者数	2歳児	1歳児	0歳児	新生児
	18名	12名	16名	5名

・教育相談件数(保護者・保健センター・保育園 等) 58件

<スタッフの体制> 常勤 2名・非常勤 1名

8

## 2. 校内連携 【早期教育相談の役割の共有】

### 1. 本校教員との連携

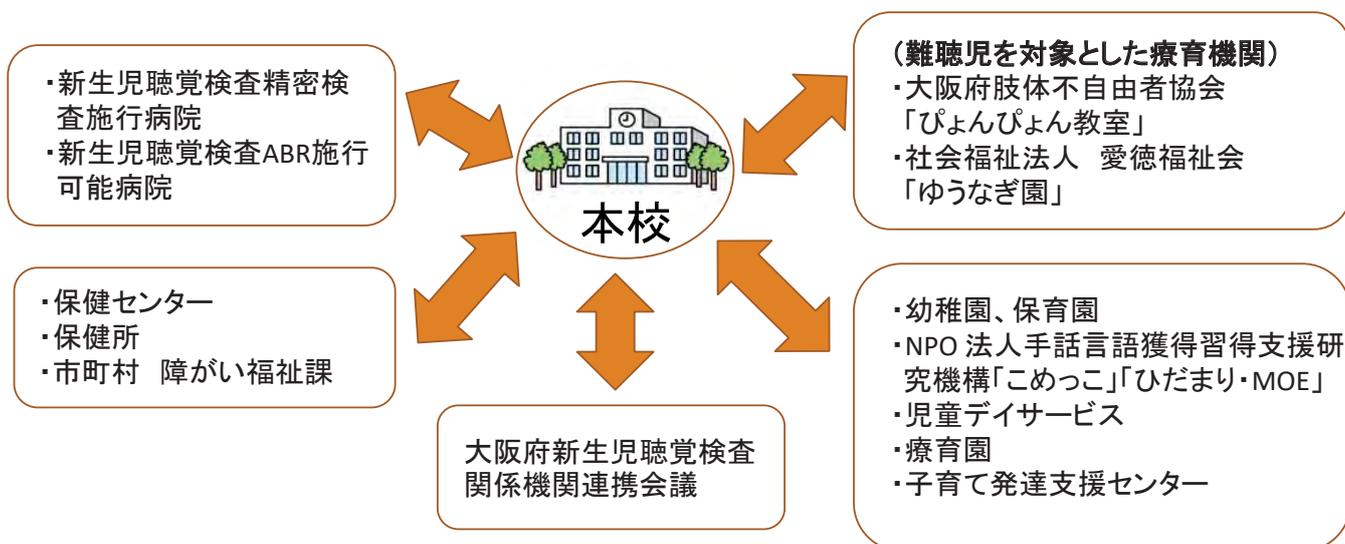
- 聴覚管理(聴力測定や医療機関と連携した補聴器適合 等)・・・幼稚部聴能担当者
- 2歳児を対象とした幼稚部との交流・・・幼稚部教員
- 0～2歳児保護者向け講座・・・本校の聴覚障がいのある教員
- 夏の子育て講座(保護者・関連機関の指導者・保育士・保健師の方を対象とした講座)・・・支援部教員・幼稚部教員

### 2. 本校教員への共有

- 年1回、全校教員を対象に「地域支援研修会」を実施し、その中で早期教育相談の現状や課題を報告するとともに、早期教育相談の重要性について共有している。
- 早期教育相談担当者が校務分掌の支援部に所属し、I-DIC会議へも参加している。

9

## 3. 他機関との連携 【医療・保健・福祉・療育機関等との連携】



10

## ①医療との連携

### <医療機関>

- ・新生児聴覚検査精密検査施行病院
- ・新生児聴覚検査ABR施行可能病院



- ・医療機関との情報共有
- ・聴覚管理(聴力測定、医療機関と連携した補聴器適合・調整)
- ・「子育て講座」の案内
- ・人工内耳装用児のきこえや発達の状況の共有
- ・本校から医療機関への訪問、医療機関から本校への参観

11

## ②保健・福祉機関との連携

### ○本校から保健・福祉機関へ

- ・保健センター等を訪問し、「子育て講座」の案内
- ・「夏の子育て講座」の案内を送付
- ・保健センターへ訪問し、「聴覚障がい児の早期発見と療育・教育」について啓発
- ・「学校見学会」の案内



### ○保健・福祉機関から本校へ

- ・「子育て講座」についての相談
- ・難聴が疑われる乳幼児についての相談
- ・「夏の子育て講座」や「学校見学会」への参加

### <保健・福祉機関>

- ・保健センター
- ・保健所
- ・市町村 障がい福祉課

12

### ③他の機関等との連携

#### <療育機関>(難聴児を対象とした療育機関)

- ・大阪府肢体不自由者協会 「ぴよんぴよん教室」
- ・社会福祉法人 愛徳福祉会「ゆうなぎ園」

#### <その他の機関>

- ・手話言語獲得習得支援研究機構 「こめっこ」・「ひだまり・MOE」
- ・幼稚園、保育園 ・児童デイサービス ・療育園
- ・子育て発達支援センター



- ・ぴよんぴよん教室やゆうなぎ園と連携し、乳幼児に関する情報の共有
- ・ぴよんぴよん教室に向けて幼稚部見学会を開催
- ・ぴよんぴよん教室やゆうなぎ園に向けて幼稚部体験保育を案内
- ・「こめっこ」が、「出張こめっこ」として、本校の「子育て講座」に通っている親子に向けて手話での絵本の読み聞かせや、保護者への手話指導を実施
- ・本校と併通している乳幼児を担当する保育士の「子育て講座」見学、教育相談

13

## 4. 地域や学校の特徴的な取り組みや成果と課題等

### ①本校早期教育相談の特徴

1. 聴覚支援学校において、3歳未満児対象の早期支援は現在も重要
  - ・聴覚障がい児の集団・仲間、コミュニティーとしてのろう学校
  - ・同じ聴覚障がい児を育てる保護者同士のつながり(先輩の保護者との出会い)
  - ・手話との出会いやロールモデルの存在
  - ・2歳児から本校幼稚部への入学は校内で引き継ぎが可能(一貫性)
  - ・聴覚障がい教育の専門性が蓄積されているろう学校

補聴器、人工内耳、手話等の活用、言語発達を重視
2. 聴覚障がいの発見から早期支援へ、医療機関と連携・連続した支援
3. 保健センターとの連携、療育機関との相互連携など、保健・福祉との連携

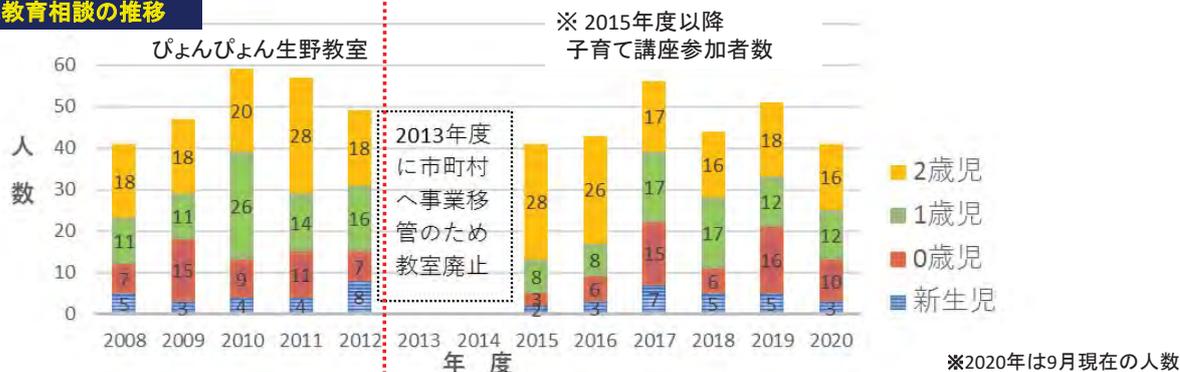
14

## ②本校早期教育相談の成果

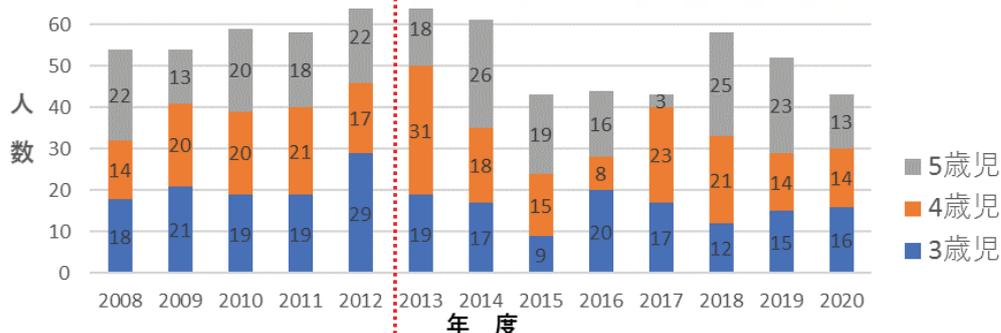
1. 新生児聴覚スクリーニングの普及により、早期に聴覚障がい児を発見し、補聴器や人工内耳を装用し、早期教育相談や療育に繋げることで、早期から聴覚活用や言語発達を促すことができるようになった。
2. 大阪府では、2013年に3歳未満児対象の早期支援が市町村に移管されたが、2015年以降保護者支援を中心とした「子育て講座」として支援を広げてきたことで、法改正前と同程度の人数の聴覚障がい児と繋がることできるようになった。
3. 府内においては、医療・保健・福祉・教育が連携し、体制づくりを推進。聴覚障がいの診断から療育・教育への連続した支援体制が一定確立した。
4. 府下の療育機関や相談機関の数が増え、保護者・家族が療育機関や相談機関を選択することができるようになった。

15

### 3歳未満児教育相談の推移



### 3歳～5歳 幼稚園在籍数の推移



16

### ③本校早期教育相談の課題

1. 新生児聴覚スクリーニング検査から確定診断までの間、保護者が不安を抱えたまま過ごすことになるため、診断確定前の支援も必要である。
2. 共働き、核家族の家庭が増え、定期的に通うことが難しい家庭が増えている。結果、補聴器装用の安定や言語発達を促すことが難しくなっている。
3. 「子育て講座」に通うことで、仲間に出会い、情報を得ることができ、子どもの成長により保護者の不安は軽減されるが、聴覚障がいについて正しく理解してもらうことが難しくなっている。
4. 早期教育相談に関わる担当者の増員
5. 早期支援に関する専門性の維持、継承
6. 医療・保健・福祉・教育のさらなる連携強化

17



ご清聴ありがとうございました

18

国立特別支援教育総合研究所主催

「令和2年度難聴児の切れ目ない支援体制構築と  
更なる支援の推進に向けた全国研修会」

交流の広場

14:10～15:10

実践報告：長崎県立ろう学校

平成30年 長崎県大村市宮小路に移転

創立122年



## 乳幼児教育相談室・聴能室



個別相談：1日3コマ  
 合同あそび：月1回  
 保護者学習会：月2回  
 季節の行事：幼稚部との合同



## 1 来室児数、スタッフの体制等

**平成30年度** 来校相談件数 **181件** 来校実数 42組  
 電話相談 40件 派遣相談（訪問支援） 5件

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
実人数	7人	3人	5人	14人	9人	4人

**令和元年度** 来校相談件数 **158件** 来校実数 25組  
 電話相談 5件 派遣相談（訪問支援） 1件

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
実人数	3人	6人	1人	7人	5人	3人

### スタッフ体制

令和元年度まで：乳幼児教育相談専任教諭 1名、全校担当ST 1名

令和2年度より：乳幼児教育相談専任教諭 1名、乳幼児+幼稚部兼任教諭 1名

全校担当ST 1名

## 2 校内連携（乳幼児教育相談の役割の共有）等

1. **STや他の職員との連携**：個別相談の際、乳幼児の音や声への反応、家庭生活全般での様子、医療機関での診察・診断などの聞き取りなどを担当が行っている時に可能な時間STも同席し、タイミングを見て聴力検査及び説明も一緒に行っている。  
(乳幼児教育相談室と聴能室は通り抜け可能)

相談終了後、STと相談担当者が記録を記入し、今後の支援、方向性、関係機関との連携などについて情報を共有。

個別相談、合同あそび、保護者学習会等の記録と聴力測定の結果については、写真（遊びの様子、聴力測定の様子）とともに管理職への回覧を毎回行い情報を共有。

## 2 校内連携（乳幼児教育相談の役割の共有）等

2. **全校職員研修会の実施**：毎年1学期中に本校乳幼児教育相談の体制、全校における位置付けと役割、取り組みの実際（個別相談時における聴力測定・関わりの様子、合同あそび：動画や写真）、保護者学習会の内容などについて説明と研修実施。  
\* 「きこえとことばの発達～早期教育の視点から難聴乳幼児の言語発達を考える～」とのテーマで研修を行い、早期教育、保護者支援、「発達」理解の重要性を伝えている。

3. **初任者研修の実施**：テーマ「本校の乳幼児教育相談の実際と幼稚部教育」についての研修を実施。難聴乳幼児の早期教育と保護者支援の重要性などを伝えている。また、合同あそび、保護者学習会の際、初任者も参加、参観。  
(乳幼児参加人数が多い際は、他学部の職員へも参加・保育依頼)

## 2 校内連携（乳幼児教育相談の役割の共有）等

### 4. 乳幼児教育相談に関する全国的な流れの情報提供：出張報告会

「R元年度 全日ろう研（高岡大会）早期教育 I 分科会」報告

H29.30年度 聴覚障害乳幼児教育相談研究会成果報告書より全国調査結果報告

「聴覚障害乳幼児の教育相談指導の現状と課題」、分科会発表概要、厚労省・文科省合同プロジェクト「難聴児の早期支援に向けて、保健・医療・福祉・教育の連携」などについての紹介を行った。

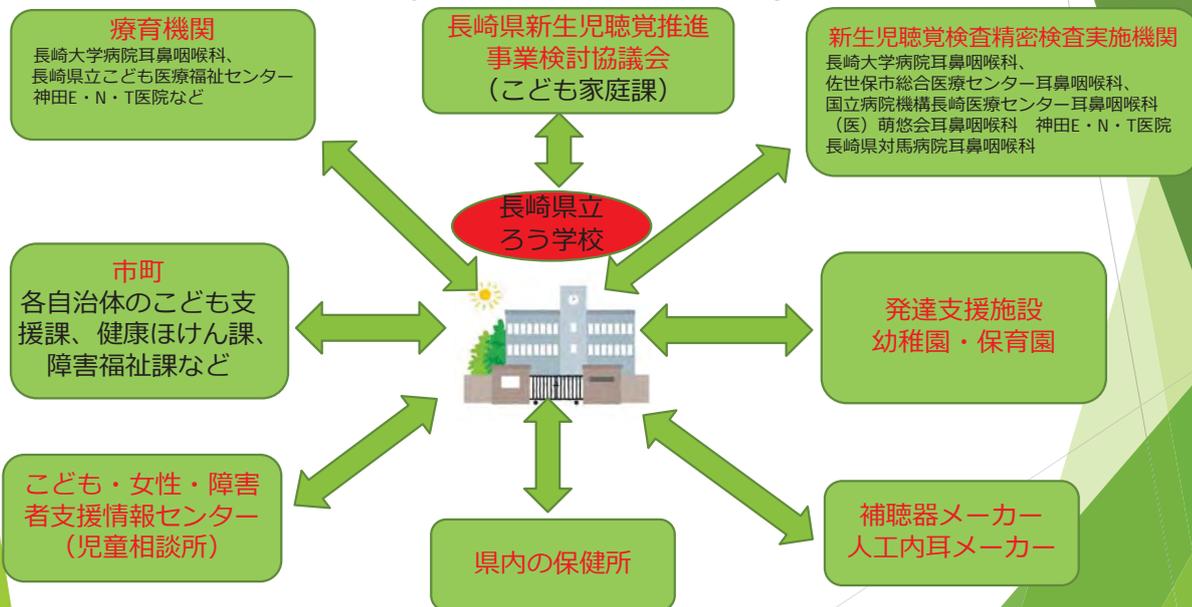
また、本校の教育目標、各部の努力目標である、「聴覚活用の力を最大限に伸ばすとともに、幼児一人一人に応じたコミュニケーション手段を積極的に使いながら、生活言語の習得・拡充を図る」ために、乳幼児時期からの関わりで大切なことを本大会に参加しておられた齋藤佐和先生、松本末男先生に再確認し、ご助言を頂き、その事柄を全職員へ文書及び報告会で伝えた。

## 2 校内連携（乳幼児教育相談の役割の共有）等

「ことばのサンドイッチ」：まどろっこしいかもしれないが、日々の生活の中で最初と最後はきちんと文レベルでことばを聞かせて日本語として押さえる、文章で押さえる、真ん中は、子どもが分かる様々な手段を活用し、文脈の中でしっかりと分からせる。「分かる」ことを丁寧に日々の生活の中で積み重ねていくこと、子どもが何をどのように分かったかの確認、様々な分からせ方、質問の仕方の工夫の大切さを全職員へ説明。

乳幼児教育相談担当者においては、「保護者に話を聴かせていただいている」という担当者の謙虚な姿勢と保護者との話し込み、それぞれの保護者の我が子との日々の関わりを「尊いもの」としてしっかり受け止めて褒め、励ましていく、担当者自身の人としての在り方の再確認を行うことができた。

### 3 他機関との連携（医療・福祉・他の教育機関との連携） （長崎県立ろう学校 乳幼児教育相談）取り巻く関係機関との連携図



### 3 他機関との連携（医療・福祉・他の教育機関との連携）

1. 長崎県新生児聴覚検査推進事業検討協議会（長崎県こども政策局こども家庭課）

2. 新生児聴覚検査精密検査実施機関

長崎大学病院耳鼻咽喉科、佐世保総合医療センター耳鼻咽喉科、  
国立病院機構長崎医療センター耳鼻咽喉科  
（医）萌悠会耳鼻咽喉科 神田E・N・T医院、長崎県対馬病院耳鼻咽喉科

3. 療育・教育機関

長崎県立ろう学校本校乳幼児教育相談、佐世保分教室乳幼児教育相談、  
長崎県立こども医療福祉センター、長崎大学病院耳鼻咽喉科、神田E・N・T医院  
長崎ベルヒアリングセンター

### 3 他機関との連携（医療・福祉・他の教育機関との連携）

#### 4. 市町

各市役所：こども健康課、子ども支援課、こども家庭課、健康ほけん課、保健センター等

#### 5. 保健所、福祉事務所

#### 6. 補聴器・人工内耳メーカー

7. 発達支援施設、幼稚園、保育園：乳幼児教育相談来校乳幼児が利用している施設、園を中心に連携。（職員研修会実施、訪問支援など）

8. 児童相談所：長崎こども・女性・障害者支援センター、佐世保こども・女性・障害者支援センター

## 長崎県立ろう学校乳幼児教育相談パンフレット

**難聴のお子さんは・・・**

- 音がしても気づかない。（ドアの音、車の音、芝居のチャイムなど）
- 言葉の意味が聞き取れない。
- ことばをしゃべらない。（ごく身近な単語しか言わなかったり、ことばの数が少ないたりする）
- 言われたことをなかなか理解できない。
- やりとりがうまくいかなかったり、質問に答えられなかったりする。

**早期に教育相談を開始すると・・・**

- 必要に応じて早い時期から補聴器等を使用し、聴覚能力を高めるような働きかけをすることで、聴覚が鍛えられ、聞き取りの力が向上します。
- 聞こえにくさに配慮した話しかけ方や関わり方をすることで、子どもの情緒が安定し、子どもの言葉やコミュニケーションの発達が見られます。
- 保護者の間に、聴覚障害に関する知識を養っていたり、同じ障害のあるお子さんを持つ保護者同士での交流も持っていたりすることで、心構えに定着して楽しく子育てをしていただくことができます。

乳幼児教育相談は〇歳児から受け付けています。（予約制・無料です）  
お子さんの様子が見えたら  
まずはお電話を！！

**長崎県立ろう学校**  
〒856-0807  
長崎県大村市高小路3丁目5番5  
TEL 0957-55-5400  
FAX 0957-55-9410  
e-mail [info@nss.ed.jp](mailto:info@nss.ed.jp)  
URL <http://www.nss.ed.jp/rou/>

**長崎県立ろう学校依世保分教室**  
〒857-0114  
佐世保市小舟町00  
TEL 0956-46-0881  
FAX 0956-46-2488  
e-mail [info@rou.ed.jp](mailto:info@rou.ed.jp)  
URL <http://www.nss.ed.jp/asseborou-b/>

**乳幼児教育相談**

「聴覚検査スクリーニング検査でリファア（要検査）とされた」「1歳半健診や3歳半健診で聴覚やことばの遅れが見つかった」「なんとなく聞こえやことばが気になる」

早期発見・早期教育でことばやコミュニケーションの発達を大きく促します。

**長崎県立ろう学校**  
長崎県立ろう学校 依世保分教室

**乳幼児教育相談の方針**

- 乳幼児期からの安定した親子関係づくり・生活習慣を定めます。乳幼児期にふさわしい生活や遊びを通して、心身の調和のとれた発達が見られるよう支援します。
- 保育する職員を専任職員に配置するとともに、家庭に合わせた多様なコミュニケーション手段も活用、併用しながら、親子が確実に豊かに伝え合えるように支援します。
- 遊びや生活での観察や、「生活記録」、聴覚などの中で得た情報と聴力測定等の結果から、聴力の把握と必要に応じて補聴器使用の提案、および調整を行っています。
- 聞こえやことばだけでなく、身体的な発達（身体の発達、心の発達、遊びの発達）など、色々な角度から発達を促して支援します。
- 保育や福祉、発達支援、保健師・幼稚園などの関係機関との連携を取りながら子どもさんへ多方面からの支援を行っていきます。

**乳幼児教育相談の内容（0歳～小学校就学前）**

- 聴力測定
- 補聴器の使用や調整に関する支援
- 人工的聴覚の取得前後の療育の支援
- 言葉やコミュニケーションの発達の支援
- 体と心と言葉の全人的な発達に関する支援
- 聴覚・中重度聴覚障害、一側性聴覚の幼児の療育についての支援
- 保護者の子育ての支援
- 保護者の聴覚障害理解のための支援
- 乳幼児期のお子さんや保護者、保育士との交流
- 高校・福祉・保健など関係機関との連携
- ろう学校幼稚園入学、地域の幼稚園、保育園への入園に関する相談など

**能力測定**  
状態に応じた検査法を選択し、結果を積み重ねることで、聴力の確定を進めます。

**補聴器使用のサポート**  
聴力の測定や聴覚状況に応じて、補聴器の調整を支援します。

**補聴器・人工内耳のチェック**  
より高い聞こえのために、補聴器や人工内耳が正しく機能しているかをチェックします。

**個別相談**  
お子さんと関わりながらコミュニケーションのとり方を具体的にお伝えします。保護者の今の生活の悩みについて、相談をお受けします。

**保護者学習会**  
聞こえやことばの発達、補聴器や人工内耳、子育て上の悩みなどについての相談をします。

**合同活動**  
合同で、発達支援、聴覚・リスニングなどを行います。聴覚部（3・4・5歳児）と聴覚の合同活動も行います。

聴力測定  
個別相談  
保護者学習会  
合同あそびの様子

### 3 他機関との連携（連携の実際と工夫）

- 1 医療 : 本校乳幼児個別相談の際に実施した聴力測定結果を次回の通院の際に持参して頂き、補聴器装用の必要性の判断及び補聴器、人工内耳の調整の参考にして頂いている。
- 2 医療 : 医療からの紹介状を持参しての相談は、必要に応じて本校相談の概要、今後の支援の方向性についての文書を医療へ郵送している。
- 3 関係機関 : パンフレット配付及び送付  
長崎県の地区ごと（長崎市、諫早市、大村市、島原市、東彼杵地区など）に乳幼児教育相談担当者が出向き、担当者と直接話をして説明、連携を行っている。島地区については、郵送、電話連絡。  
\*地区ごとに理解・啓発事業として毎年行っている。

### 3 他機関との連携（連携の実際と工夫）

- 4 医療 : 保護者の医療受診の際の付き添い（保護者依頼があったときのみ）
- 5 関係機関 : 外部職員向け研修会・学校公開の案内（文書発送）  
（大村市内幼稚園・保育園、長崎県下小中高、保健所、医療・福祉・発達支援施設など）  
\* 研修会当日、情報交換会を実施（保育園・幼稚園・保健師・発達支援施設関係職員など）  
幼稚部体験入学の案内（耳鼻科、保健所、関係機関へ案内：1月実施）
- 6 関係機関 : 個別での相談・職員研修会実施（発達支援施設、保育園、幼稚園職員など）  
「補聴器・人工内耳の管理」「補聴器・人工内耳の仕組み」「ことばの育ち」等
- 7 関係機関 : 訪問支援  
（幼稚園・保育園・発達支援施設などから支援依頼があった時訪問し参観及び懇談）  
\* 地域の小学校入学後の支援も継続して行っている。（入学前の学校支援、教育相談、訪問支援など）

### 3 他機関との連携（長崎県：連携の実際）

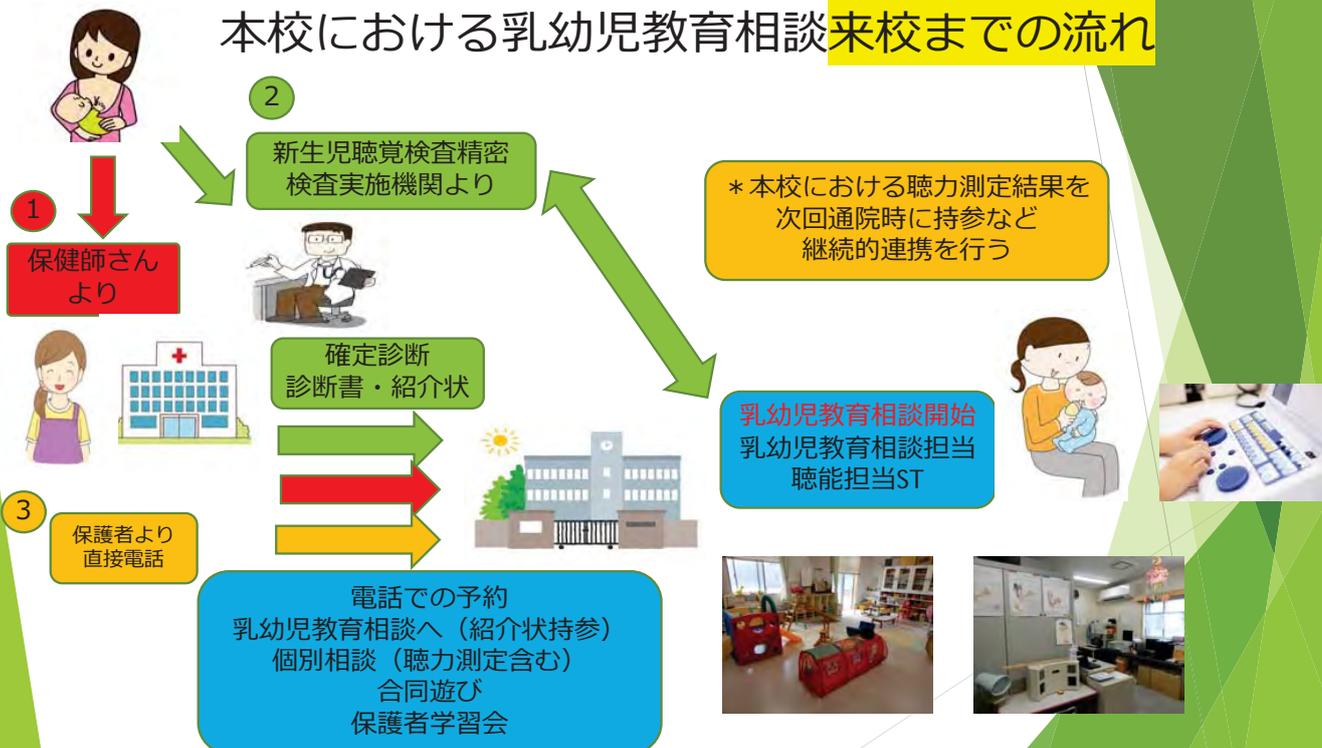
**長崎県立ろう学校乳幼児教育相談**  
 （専任1名、幼稚部との兼任1名、ST1名）  
 佐世保分教室（専任1名、STが月1～2回）  
 長崎大学病院耳鼻咽喉科  
 （医）萌悠会耳鼻咽喉科 神田E・N・T病院  
 長崎県立こども医療福祉センター

**長崎県新生児聴覚検査推進事業検討協議会**  
 （メンバー16名以内）  
 長崎県医師会副会長、長崎大学小児科医、  
 産科医、長崎県耳鼻咽喉科医会乳幼児医療  
 委員、長崎県言語聴覚士会理事、長崎県市  
 町村保健師会理事、保健所代表、長崎県立  
 ろう学校乳幼児教育相談担当、精密検査実  
 施機関耳鼻咽喉科医、など



**定期的連携**  
 新生児聴覚検査精密検査実施機関、療  
 育機関、市町（こども健康課、子ども  
 支援課、子ども家庭課など）、保健所、  
 福祉事務所、地域の発達支援施設、関  
 係幼稚園・保育園など

### 本校における乳幼児教育相談 来校までの流れ



## 長崎県：巡回療育相談（長崎県障害福祉課管轄） 長崎県立こども医療福祉センター（相談事業）

- 目的**：相談チームを編成し、県内各地、特に離島や辺地を巡回し、保健所や関係機関と密接な連携のもと、在宅の障害児（者）等に対し、障害に関する各種の相談に応じ、必要な支援を行うとともに、地域の療育体制づくりを支援していく。
- 事業の位置づけ**：実施においては、県立保健所を現地の調整窓口とし、各市町、関係機関の協力を得て実施。
- 協力関係機関**：県立保健所、市町（保健・福祉・教育委員会）、学校、幼稚園、保育所、児童相談所、病院・診療所、社会福祉協議会、障害児親の会、障害者団体ならびに関係者、障害児通所支援事業所、その他福祉関連機関など。
- 相談チーム**：医師（整形外科医師、小児科医師）、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、心理士、保健師、社会福祉職、その他
- 対象児**：専門の医療機関を受診していない在宅の障害児（者）であること  
乳幼児健診後の精密健診または乳幼児発達専門相談事業等において、専門の療育相談が必要と判断された者  
保護者及び関係者に対し、児への対応について専門的な助言を必要とする者  
児を取り巻く環境改善のために専門的な介入を必要とする者
- 実施地域**：県北・五島・上五島・杵岐・対馬地域の5カ所

## 4 地域や学校の特徴的な取組や成果と課題

### 地域の取組

#### 1 「長崎県新生児聴覚検査推進事業検討協議会」、平成15年設置。

事務局は、長崎県こども政策局こども家庭課  
本県における新生児聴覚検査推進事業の円滑な推進と早期発見・早期療育体制の整備を図る。

委員：16名以内、年に1～2回集まり協議会を行う。

委員：長崎県医師会、産婦人科医、小児科医、耳鼻咽喉科医、精密検査実施機関関係者、療育機関関係者、県保健所、ろう学校乳幼児教育相談担当者など

令和元年度 協議会議題：「長崎県新生児聴覚検査スクリーニング実績報告」  
「長崎県軽度・中等度難聴児補聴器購入費助成事業補助金実績報告」  
「長崎県新生児聴覚検査についてのパンフレット作成」・・・写真あり  
「令和2年度の事業内容について」  
「報告事項」など



## 4 地域や学校の特徴的な取組や成果と課題

### 学校の取組

#### 1 保護者学習会の実施：年間17回（乳幼児教育相談担当者、ST担当）

先輩保護者の講話、聴覚障害者本人の講話・体験談（本校卒業生）など

\* 年間計画：表あり

#### 2 「生活記録」を通しての保護者支援

#### 3 学校公開、外部職員向け研修会、情報交換会の実施（年2回）

#### 4 訪問支援の実施：来校乳幼児教育相談乳幼児が利用している幼稚園・保育園・

発達支援施設への訪問（参観及び懇談、情報提供）

#### 5 長崎県下への理解・啓発活動

## 保護者学習会（年間計画）

令和2年度 乳幼児教育相談保護者学習会 実施内容

令和2年 5月

時間帯：10:45～12:15  
曜日：木曜日（月2回）  
参加者：乳幼児教育相談保護者及び幼稚園在籍保護者（希望者）  
（1学期～3学期）

月	日にち・内容	担当者 (本校)	その他 (保育担当・外部関係機関 など)
6	11日(木) 開講式 本校乳幼児教育相談の基本方針と相談形態、職員紹介 自己紹介（乳幼児教育相談・幼稚園保護者） 第1回 保護者学習会 乳幼児期における育ちについて「発達の視点からことばの育ちを考える」その1	深堀（主担当） 内田 西水 参加者：幼小学部主事 校長	保育：内田、高原 （池下） 西水
	発達のみならず個人差 「からだ、こころ、ことば」 ・子どもの発達とことば ・暮らしの中で発達の基礎をつくるということ ・脳の発達について ・口声模倣とは 4月からの様子など（情報交換） *相談・連携・学習会内容などに 関するニーズ		

乳幼児の全体発達に関する視点（身体、認知、運動、遊び、社会性言語の発達）

6	18日(木) 第2回保護者学習会 聞こえの仕組みと 乳幼児聴力検査の基本的知識 25日(木) 第3回保護者学習会 乳幼児期における育ちについて「発達の視点からことばの育ちを考える」その2 「イメージとことばの結びつき」その1 ・体験活動を通してどのように結びつけるか ・事前と事後の扱いについて ・絵日記の活用について 「コミュニケーションとは？」その1 ・「分かる」「伝わった」実感を持つコミュニケーションとは ・音声、絵や写真、絵辞典の使い方など	9	10日(木) 第6回保護者学習会 「伝音性難聴と感音性難聴について」 24日(木) 第7回保護者学習会 乳幼児期における育ちについて「発達の視点からことばの育ちを考える」その3 「イメージとことばの結びつき」その2 ・体験活動を通してどのように結びつけるか ・事前、事後の扱いについて ・絵日記の活用について ・家庭で活用する絵カード、手作りことば絵辞典など
7	9日(木) 第4回保護者学習会 「オーゾグラムで分かること」 16日(木) 第5回保護者学習会 「乳幼児期における全体発達について」 1学期を振り返って質問にお答えして	10	8日(木) 第8回保護者学習会 両耳難聴と片耳難聴について 22日(木) 第9回保護者学習会 保護者講話（体験談）、座談会 「乳幼児期における家庭での取り組みと育ち」その1 ・絵日記の活用 ・家庭と学校生活 ・ことばの育ち ・地域の学校への就学を通して考えたことなど

## 保護者学習会 (年間計画)

1.1	5日(木) 第10回保護者学習会 補聴器と人工内耳の管理について	1.	1.4日(木) 第13回保護者学習会 乳幼児期における「やりとり」を通して思考の力を育てる ～話し合い活動への道筋～
	1.9日(木) 第11回保護者学習会 講話(体験談) 座談会 『乳幼児期における家庭での取り組みと育ち』その2 ・幼稚園～小学校～中学校～高等学校での生活を通して観として考えたこと		2.8日(木) 第14回保護者学習会 難聴体験
1.2	3日(木) 第12回保護者学習会 人工内耳の両耳装着	2.	1.8日(木) 第15回保護者学習会 『コミュニケーションとは?』 その2 ・「分かる」「伝わった」実感を持つコミュニケーションとは。 ・拡充模倣とは *1年間を振り返るの情報交換
			2.5日(木) 第16回保護者学習会 補聴器と人工内耳の最新情報

イメージとことばのむすびつきについて  
絵日記の活用について

3.	1.1日(木) 閉講式 10:45～10:55	深福(主担当) 西水 内田	保育:内田、馬場 (高原)(池下) 西水
	第17回保護者学習会 令和2年度 保護者学習会を振り返って(懇談) 『難聴児の言葉の発達』 『難聴児の言葉の課題』 (3歳未満と3歳以上の違い) 就学にあたって 『5歳の坂をのりこえるために』	参加者: 幼小学部主事 校長	
	*学習会参加希望の際は、乳幼児室予約カレンダーに名前を記入してください。 *上記、学習会予定ですが、都合により変更することもあります。 *必要に応じて、また、ご要望に応じて保護者学習会を追加して行うこともあります。その際は、事前にお知らせいたします。 *学習会につきましては、乳幼児教育相談室前の「研修室」で行います。保育を希望の方は、事前にお知らせください。		
	*コロナウイルス流行のために状況によっては、日程・内容の変更もありますのでご了承ください。		

先輩保護者講話、卒業生体験談など

難聴体験人工内耳についてなど

## 4 地域や学校の特徴的な取組や成果と課題

### 成果

#### 1 乳幼児の全体発達に関する視点からのアプローチと理解

「保護者学習会」において、乳幼児期における「発達」に焦点をあてた内容を年間を通して組み立て、乳幼児の全体発達に関する視点(身体、認知、運動、遊び、社会性、言語の発達を基本とした押さえ)からのアプローチを行い、全体発達の1つの領域としての「言葉」であることを理解していただくことができた。また、他の障害を併せ持つ乳幼児への「感覚統合理論」に関する情報や関係施設についても紹介しつなげることができた。

#### 2 個々の乳幼児を取り巻く生活全般における包括的支援

来校乳幼児を取り巻く関係機関との連携により、学校、家庭だけでなく、個々の乳幼児を取り巻く包括的な支援を行うことができた。必要に応じて幼稚園、保育園、発達支援などへ訪問支援を実施したり、関係職員へ研修を行うことができた。

#### 3 理解・啓発による連携

今年度は、管理職(校長、教頭)と乳幼児教育相談担当者と一緒に各市(大村市、長崎市、諫早市)の関係機関へ出向き、本校乳幼児教育相談に関する説明を課の責任者へ直接行うことで理解を深めて頂いた。また、地区の保健師さん方の研修会への乳相談担当者参加と啓発も依頼することができた。

## 4 地域や学校の特徴的な取組や成果と課題

### 課題

- 1 県下の保健師さんとの連携強化：各自治体の検診時における協力体制、巡回療育相談後の連携、研修会時における本校乳幼児教育相談体制の紹介と担当者の研修会参加など。
- 2 県南、県北地区の難聴乳幼児への支援体制（サテライトなど）
- 3 五島、上五島、吉岐、対馬の難聴乳幼児への支援体制（巡回支援など）  
長崎県下全地区を見据えた支援（本校と分教室における役割分担と共通理解）
- 4 他の障害を併せ持つ難聴乳幼児への関係機関との連携
- 5 連携に関わる予算の確保：現在は、訪問支援、関係機関との連携に関しては、特別支援学校支援活動費より。（乳幼児教育相談のみの予算ではなく学校支援全体を含む予算）



### さいごに

以上、長崎県立ろう学校 乳幼児教育相談における校内連携、関係機関との連携の実際と工夫、課題です。

今回の全国研修会でこのような発表の場を頂き、ありがとうございました。

他地区の取組についても参考にさせて頂きながら、今後の難聴乳幼児・保護者へのしなやかで豊かな支援へとつなげていきたいと思っております。

ご清聴ありがとうございました。

# 石川県における 聴覚障害児の早期発見・療育支援体制 の構築について

石川県健康福祉部少子化対策監室

1

## 沿 革

H16年～

難聴児ネットワーク勉強会  
(有志による)

H20年度～

県が支援体制整備に着手

H22年度～

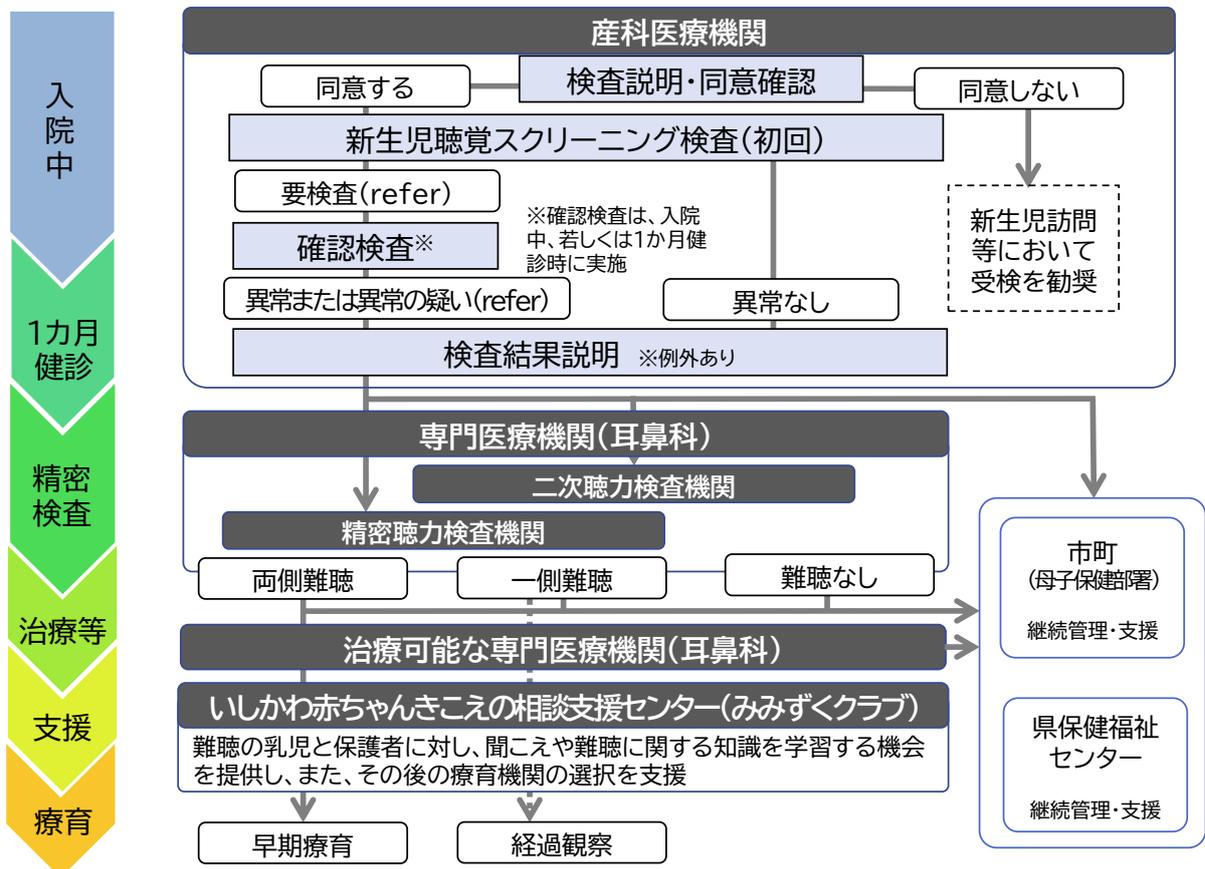
支援体制の運用を開始  
赤ちゃんきこえの相談支援センター設立

2

# 事業内容

- 1 新生児聴覚スクリーニング検査実施から療育までの支援体制の整備
- 2 検査説明用媒体の作成
- 3 関係機関での情報共有
- 4 検討会の実施

## 石川県における早期発見・療育支援体制



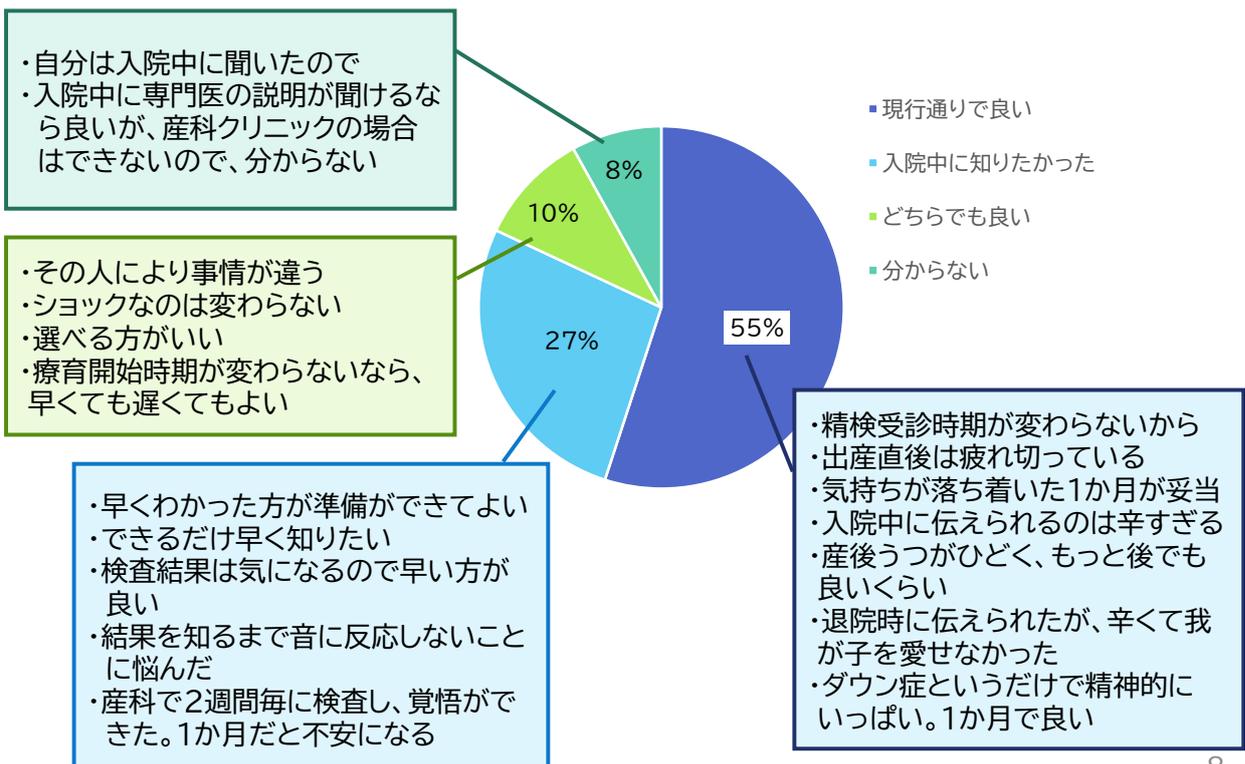


# 「きこえ」のマニュアル(産科編)

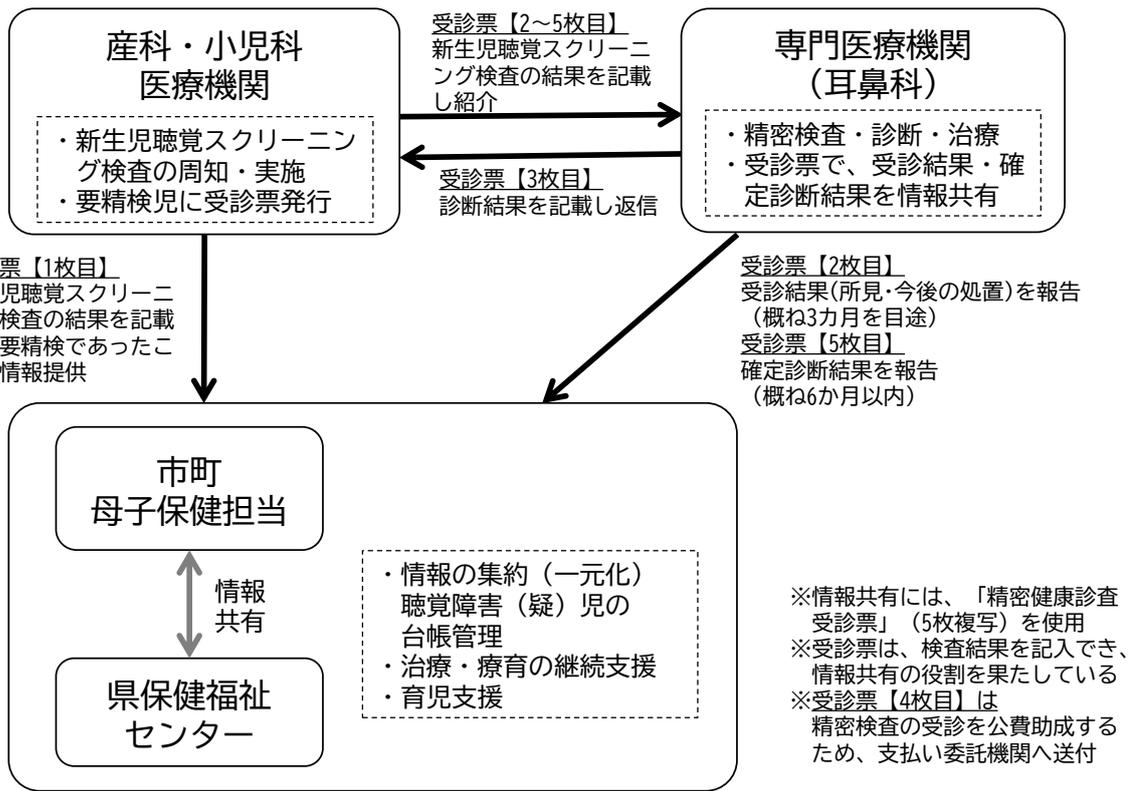


## 1か月告知に関する当事者のご意見

n = 40



# 受診票を活用した情報共有システム



# 情報共有媒体(乳児精密健康診査受診票)

⑬ 乳児精密健康診査受診票(耳鼻咽喉科等一市町) (2枚目)

下記の乳児の耳鼻科精密健康診査結果について情報提供します。

※この受診票は、石川県内に居住している乳児に対してのみ有効です。

精密検査依頼先 医療機関名	有効期間	年 月 日 ~ 年 月 日
乳児一般健康診査 受診医療機関	主治医名 (TEL)	受診日 平成 年 月 日
ふりがな 乳児氏名	生年月日 平成 年 月 日 生	保護者 氏名
住所	TEL ( )	
出生時体重:	生 産 時 重 量:	産 時 胎 児 死 (有・無)、分娩方法 (経産・帝王切開)
検査日種(生後日数)	検査方法	右 耳
初回検査 (生後 日)	ABR TEOAE: DPOAE	パス 要検査
確認検査 (生後 日)	ABR TEOAE: DPOAE	パス 要検査
確認検査 (生後 日)	ABR TEOAE: DPOAE	パス 要検査

**【基本情報】**  
児:氏名、生年月日、住所、出生時体重、在胎週数、分娩時の状況  
保護者:氏名

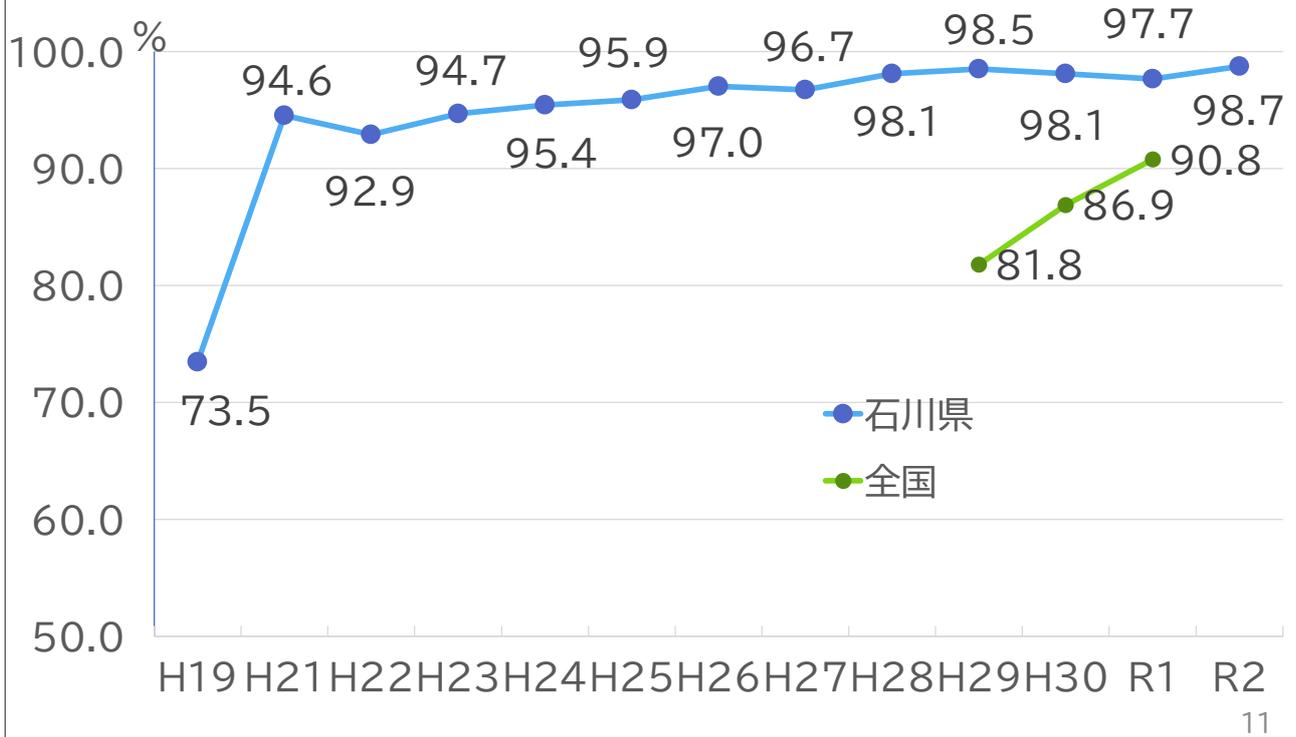
**【新生児聴覚スクリーニング検査】**  
初回検査、確認検査の  
実施日、検査方法、結果(左右)

**【精密検査・確定診断情報】**  
精密検査:受診日、検査方法、所見、今後の方針  
確定診断:ABR(V波閾値)、診断名、経過、今後の治療・療育方針

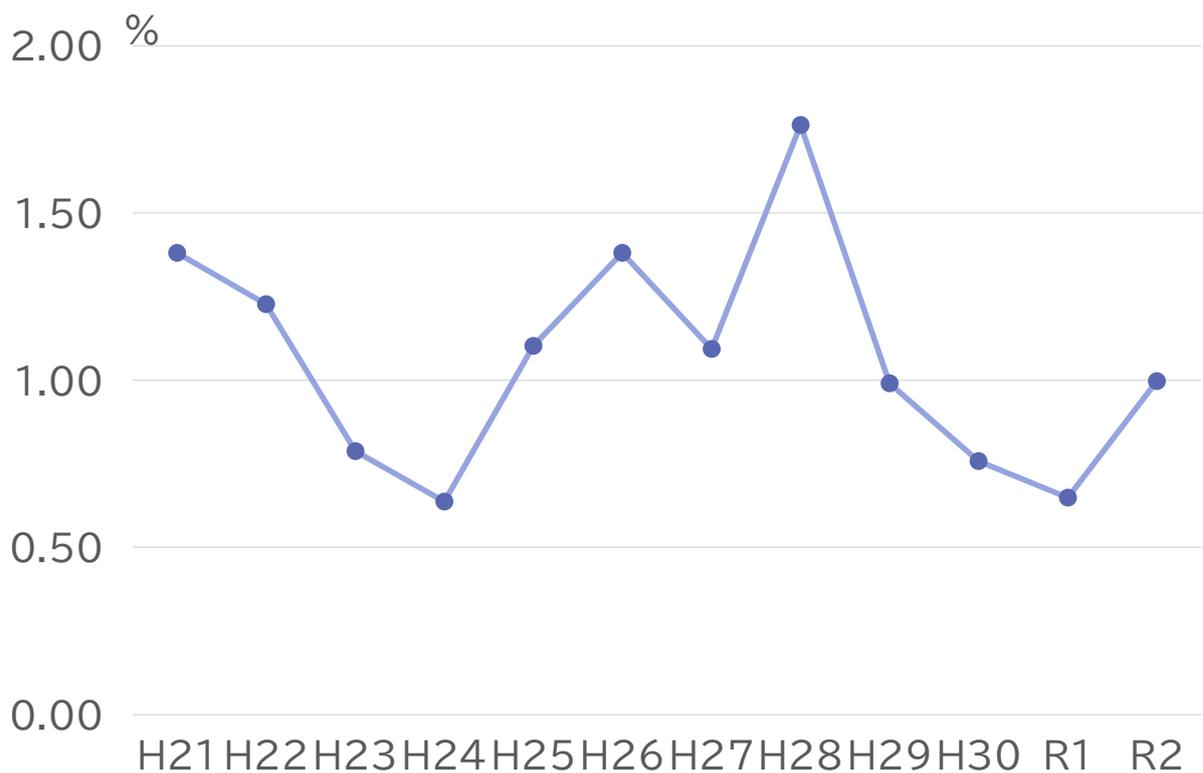
**【保護者同意】**  
情報提供・共有の同意

この検査について、精密検査実施医療機関から  
県保健福祉センターへの情報提供に同意します。 保護者氏名:

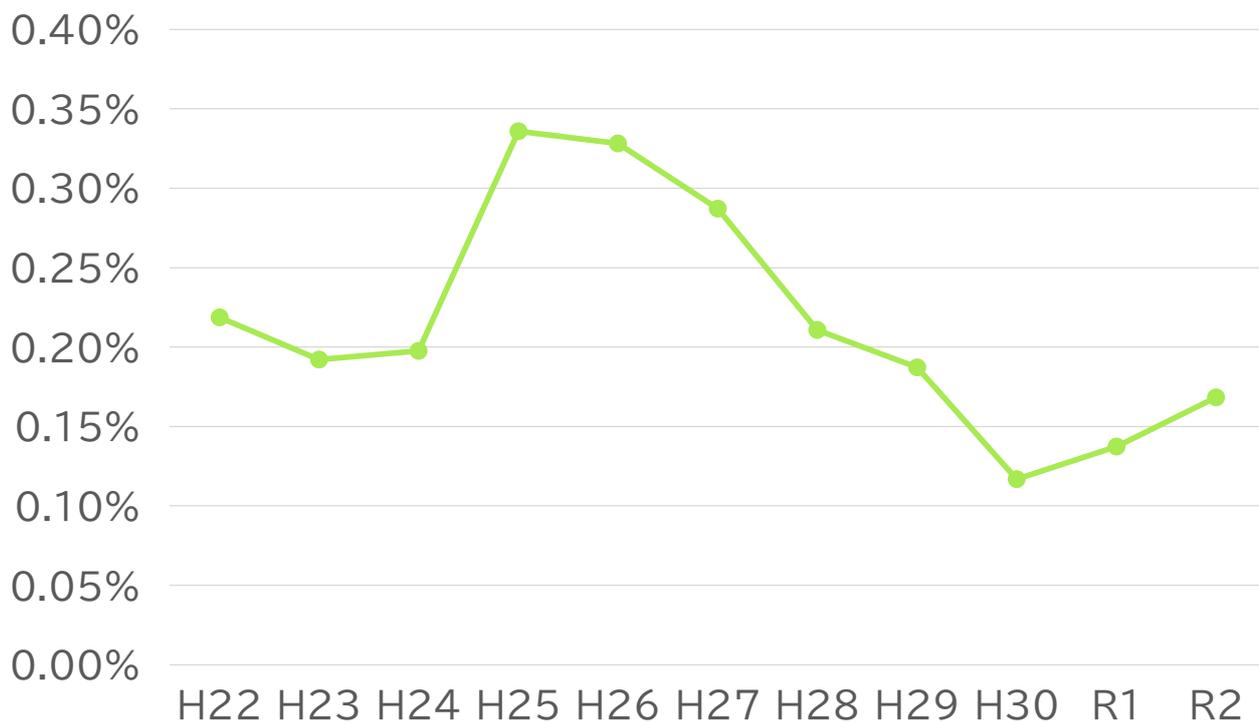
## 新生児聴覚スクリーニング検査実施率



## 要精検(refer)率



## 検査件数に占める両側難聴の割合



13

## 検討会の開催

### ●構成員：

専門医療機関、耳鼻科学会、産婦人科医会、  
小児科医師、県言語聴覚士会、県教育委員会、  
市町村、行政(母子保健担当)

### ●頻度：年1回

### ●内容：昨年度実績から、今後の課題を共有

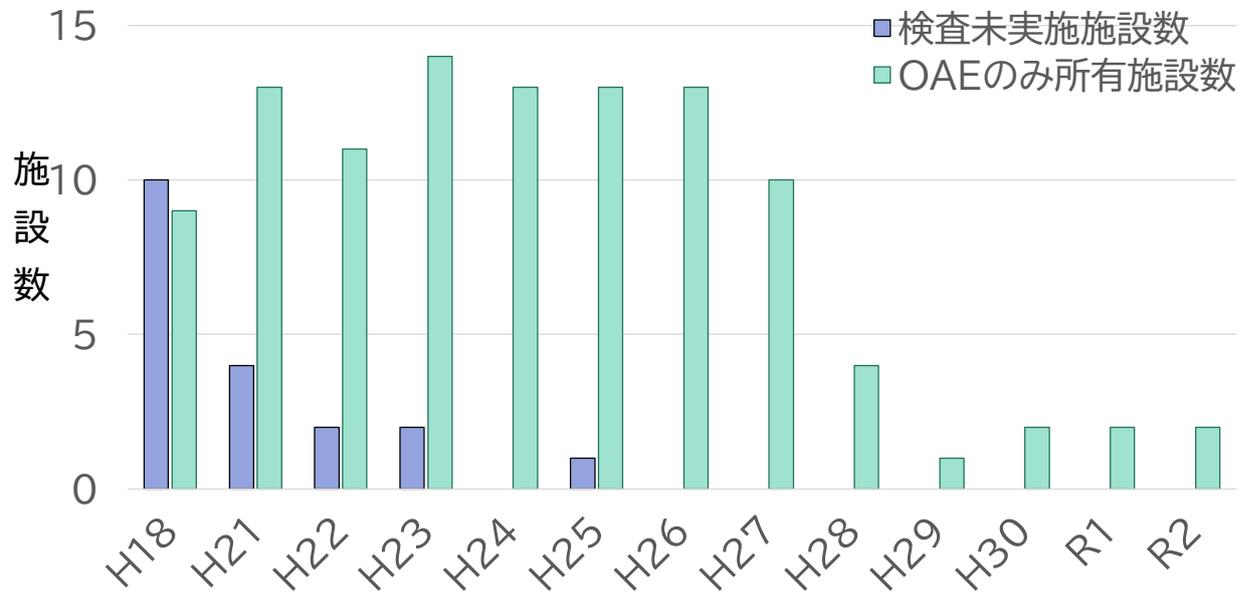
### ●近年の課題：

- ・要精検(refer)率が高い
- ・1か月告知の継続

※先天性サイトメガロウイルス感染症診断の観点から

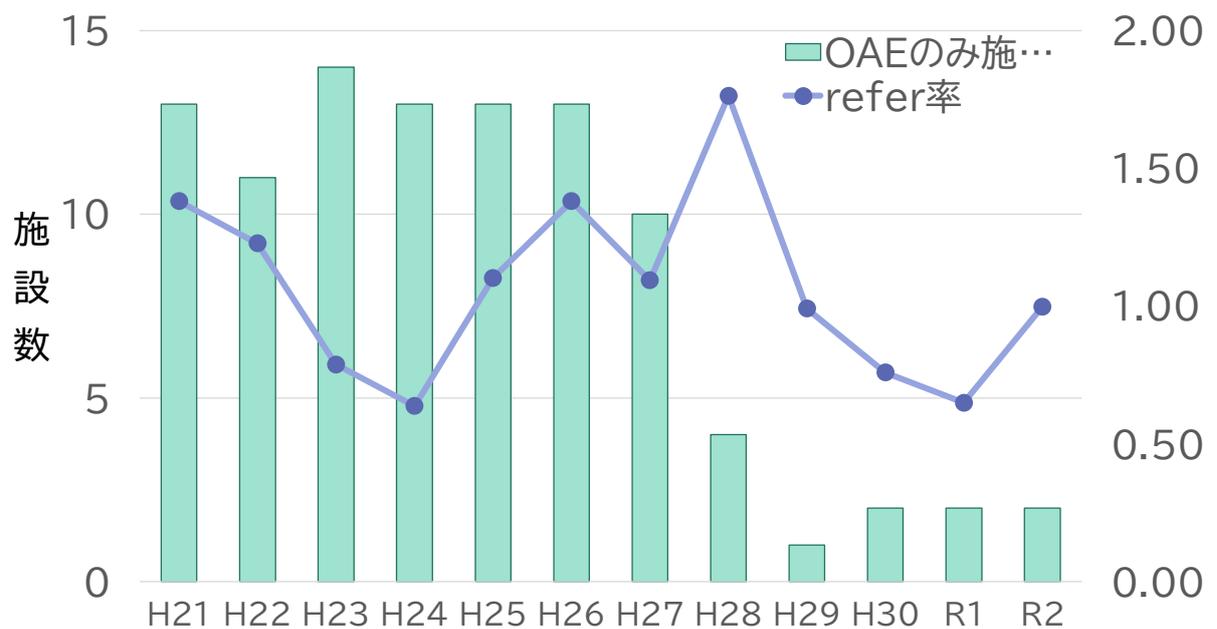
14

# 産科医療機関における機器整備状況



15

# 産科医療機関における機器整備状況



16

## 県としての今後の課題

- 専門医療機関に受診し、確定診断がされるまでの数カ月の支援が不十分
- 支援体制の要である「赤ちゃんきこえの相談支援センター」がボランティアによる活動であり、組織として脆弱である
- 療育開始後の状況確認や支援が不十分
- 中途難聴の支援体制整備

令和3年度 難聴児の切れ目ない支援体制構築と更なる支援の推進に向けた  
地区別研究協議会

◇石川県の取り組み紹介へ参加者からの質問と回答集

質問①	みみずくくらぶはどのような方で構成されていますか。
回答①	みみずくクラブは、難聴児の教育の専門家（大学の教授）、耳鼻咽喉科の専門医、言語聴覚士で構成されています。
質問②	難聴児早期支援に関わる研修会等をされていましてお教えてください。
回答②	<p>研修会について、体制整備の頃は、その都度その都度、課題に応じて実施しており、例えば、体制整備時には、産科の医療機関が機器に不慣れだということで、実際にどういう機器があって、どういう使い方をするかを、細かく説明していたり、支援体制についてお話をさせていただいております。</p> <p>今年、実施したもので言えば、市町村の母子保健担当者にみみずくクラブというのはどうということをしていて、ろう学校という欠かせない機関がありますので、ろう学校では乳幼児に対してどのようなことができるのかというのを、実例を用いながら、説明をいただいたところです。</p> <p>その時その時で課題に対して研修をしていくというスタイルをとっています。</p>
質問③	療育機関が二つあるということですが、具体的にはどのような機関になりますでしょうか。
回答③	<p>療育機関ですが、一つは県立のろう学校です。もう一つが、NPO法人です。</p> <p>実際に、療育を独自の方法でされているところがありまして、どちらの方がご本人に合うかというのは、こちらで判断できませんので、両方を平等にご紹介させていただいて、本人の意思決定にお任せするという方法を取っております。</p>
質問④	スクリーニング検査でリファアの結果の後、精密検査を受検された割合は、わかりますでしょうか。
回答④	<p>数字として今すぐには出せませんが、ほぼ100%に近いとは思っています。</p> <p>なぜかと言いますと、1ヶ月の赤ちゃん訪問で必ず、先ほどの緑色の母子手帳に挟む検査結果の用紙を、保健師が確認して、精密検査に行ったかどうかとか、どこに受診するつもりかということを知ることになっています。そこでもし、受けていないとか全然考えていないということでしたら、どうするかという意思決定を促すことを実施していますし、4ヶ月健診で実際に行ったかどうかを確認するという2段階で確認しておりますので、ほぼ100%に近いかなと思います。</p>
質問⑤	ろう学校との関わりについてどのようになっていますか。
回答⑤	<p>ろう学校の方には立場として二つあるかと思っています。</p> <p>一つは、療育機関であるということで、みみずくクラブを通じて、ろう学校を紹介させていただくということ。</p>

	<p>もう一つが、市町村の方で本人の支援をしていて、専門的にアドバイスをして欲しい時に、ろう学校をご紹介させていただいて、それで、専門的な相談支援をしていただくという、相談機能と療育機能を、どちらも活用させていただいていると思っております。</p>
質問⑥	<p>利便性がよくない地域の方の療育については、支援は何か考えていらっしゃいますか？</p>
回答⑥	<p>ろう学校等の資源から遠い利便性の悪い地域は、ろう学校が巡回相談等の取組みを行っていると聞いています。また、そういった地域は、出生数が少なく療育の必要な難聴児も少ないことから、あらかじめ特定の支援の形態を作っておくというよりは、個々の方の状況に応じて丁寧に支援を行っており、そういう事例の集積で必要性があれば、もう少し新たな形の支援を検討することもあるかと考えております。</p>
質問⑦	<p>ご紹介頂いた表の中で、OAEのみを備えている施設が減少したとのことですが、ABRやASSRは整備されているのでしょうか？</p>
回答⑦	<p>スライドでご紹介させていただいたグラフは、産婦人科による新生児聴覚スクリーニング検査の実施方法であり、産婦人科におけるスクリーニング法は、OAEとABRの2種類だと認識しておりました。当県では、ABRやASSRなどを使用した精密検査が必要な場合は、保有している耳鼻咽喉科の一覧を提示してあり、一覧の医療機関に紹介させていただいております。</p>
質問⑨	<p>みみずくクラブ運営への県の補助はありますか？</p>
回答⑨	<p>現状では、ありません。</p>

# 岐阜県内の難聴児支援について (岐阜県難聴児支援センターの開設)



令和3年11月24日  
岐阜県健康福祉部障害福祉課

## 岐阜県の現状

### 支援体制

- 岐阜市福祉型児童発達支援センター  
みやこ園（岐阜市）
- 岐阜聾学校（岐阜市）



### 岐阜市福祉型児童発達支援センターみやこ園

児童福祉法に基づき、難聴のお子さんの発達支援を行う施設です。



所在地：岐阜市都通 2-23

岐阜市福祉健康センター3階

利用：週1～2回（午前：指導、午後：懇談）

※利用には市町村が発行する「障害児通所支援受給者証」が必要です。

※診療部門にて聴力検査、補聴器の相談ができます。



### 岐阜県立岐阜聾学校

難聴の児童生徒に専門教育を行う機関です。

※乳幼児教室により、0歳からの支援も行っております。



所在地：岐阜市加納西丸町 1-74

課程：全日制課程

乳幼児教室は毎週1～2回、集団指導、個別指導を実施



3



## 本日の内容

1. 難聴児を取り巻く状況と取組の方向性
2. 岐阜県難聴児支援センターの概要
3. 令和3年度の主な取組
4. 市町村に求められる役割



4

# 1. 難聴児を取り巻く状況と取組の方向性



5

## 難聴児を取り巻く状況

### 支援の現状

○難聴児に対しては、保健、医療、福祉、教育の各分野において、支援を行っているところ。  
(◆: 県、○市町村、□: 民間機関等の取組)

#### 早期発見 [保健・医療]

○◆□新生児スクリーニング検査による早期発見の促進  
(令和元年度: 初回検査12,361人→難聴児確定診断あり42人)

#### 療育 [福祉]

○□専門療育機関(岐阜市みやこ園)における療育  
○他の療育機関(児童発達支援事業所)による療育

#### 教育 [教育]

◆県立岐阜聾学校による専門教育、特別支援学校による教育  
○◆小中学校等の難聴特別支援学級等による教育

### ■国の動き

○厚生労働省・文部科学省「難聴児の早期支援に向けた保健・医療・福祉・教育の連携プロジェクト」(令和元年6月報告)  
保健、医療、福祉、教育の相互の垣根を排除し、新生児期から乳幼児期、学齢期まで切れ目なく支援していく連携体制を、各都道府県それぞれの実態を踏まえて整備する。(令和2年度からモデル事業(補助事業)実施←岐阜県参加)

○「第2期障害児福祉計画に係る基本指針」(令和3年度～5年度)における成果目標に位置付け

令和5年度末までに、各都道府県において、児童発達支援センター、特別支援学校等の連携強化を図る等、難聴児支援のための中核的機能を有する体制を確保すること基本とする。

### ■令和元年9月 県議会一般質問

Q 飛騨地域における難聴児対応の改善についてどう取り組むのか。(センター機能の構築等)

A センターの機能を構築していくことが必要。関係機関と協議する場を設け、体制づくりについて早急に結論を出す。

6

## 難聴児の保護者の方々等への聴き取り調査（R1. 10～12）の結果から

- ：保護者の方
- ：支援関係者

### ◆難聴との診断を受けると保護者の方は不安しかない

- 難聴診断により保護者は不安でいっぱいになるが、どこに何があって、誰に何を尋ねればいいのか分からない。
- すぐに必要な支援を受けられるように、どこに何があるといったものを教えてもらえるような場、案内があるとよい。
- 難聴児をもつ保護者のネットワークがない。こういったものがないと保護者は不安を抱いたままになってしまう。
- 行政の方々等に実情を話せる機会がほしい。
- 保護者の方々に安心してもらえるよう、保護者のニーズを拾って、支援の手引書をつくっていくとよい。

### ◆専門療育機関が岐阜市に1か所あるのみであり、身近で専門療育を受けられない

- 当地（高山市）の保護者が共通して困っているのは、近くに専門療育施設がないということ。
- 最初は岐阜市内の専門療育機関に通っていたが、その時の体調によって行くことができない日や冬は雪で行けないことも多々あり、通えなくなった。
- 岐阜市内の専門療育機関以外に地元の療育機関を利用したところ、専門的な療育は受けられないものの、体幹を鍛えたり、他の利用児と触れ合うことで社会性を鍛えるにはよかった。
- 難聴に関わる行政ネットワークがあるといい。
- 他の障がい児と同様、長い目で見て、地域で支援をするという視点（発見→成長→就業）が必要ではないか。

### ◆対象者が少ないうえ専門性が高いため、難聴についての理解・知識のある方が少ない

- 市内の病院に言語聴覚士がいたが、生まれた時から聞こえない難聴児に対応できる方ではなかった。
- 難聴学級に通っているが、先生は難聴児専門ではない。
- それぞれの分野ではエキスパートがいるが、それらを一まとめに取り仕切る人材となると難しい。

7

## 難聴児を取り巻く状況に対する取組の方向性

### 考えられる取組の方向性

#### 保護者の皆さんの不安を和らげるために

- ・保護者の方がいつでも身近な場所で相談ができるようにする
- ・保護者の方に分野の垣根を超えた適切な案内ができるようにする
- ・保護者の方がお子さんの将来の見通しを立てられるようにする
- ・保護者の方の交流の場を確保する

#### 身近に必要な療育に繋がられるようにするために

- ・難聴診断があった全てのお子さんについて、適切な療育に繋がられるようにする
- ・専門療育機関による支援を遠方であっても利用できるようにする
- ・専門療育機関以外の療育機関においても必要な療育を受けられるようにする
- ・地域の関係機関の連携により必要な療育を受けられるようにする

#### 難聴児への支援についての理解・知識のある方を増やすために

- ・それぞれの分野において、専門人材を育成・確保できるようにする
- ・分野を超えた一貫した支援を指南できる人材を確保できるようにする

これらを推進するためには、医療・保健・福祉・教育の各分野が連携して一貫して支援できるよう、センタ一的機能の整備をはじめとした体制づくりが必要。

「岐阜県難聴児支援に関する検討会」の設置  
(令和元年12月11日)

8

## 岐阜県難聴児支援に関する検討会の立ち上げ

### 1 趣旨

難聴については、新生児期においてできるだけ早期に発見し、乳児期から幼児期の療育段階、学齢期以降の教育段階へと適切な支援が受けられるように繋いでいくことが望ましい姿であり、それを実現するために、保健、医療、福祉、教育の各分野の関係機関が連携して支援を行うことのできる体制づくりが必要である。

この課題に関する検討を行うため、有識者、関係者の参集を得て、本検討会を設置する。

### 2 検討事項

- (1) 関係機関の連携による難聴児支援の体制づくり
- (2) その他

### 3 構成

学識経験者、医療機関代表、療育機関代表、教育機関代表、市町村代表、関係団体代表、当事者（保護者の方）

### 4 設置日

令和元年12月11日



### これまでの開催状況

- 第1回 令和2年1月17日 難聴児に係る現状、課題についての意見・情報交換
- 第2回 令和2年3月17日 難聴児に係る課題の整理及び支援体制づくりの在り方についての検討
- 第3回 令和2年9月25日 支援体制づくりの方向性についての検討
- 第4回 令和2年11月24日 支援体制づくりの具体化に向けた検討（センターが担う機能、設置形態等）
- 第5回 令和3年2月19日 支援体制づくりの具体化に向けた検討（地域での支援の強化等）
- 第6回 令和3年9月15日 難聴児支援センターの開設について

9

### <構成(詳細)>

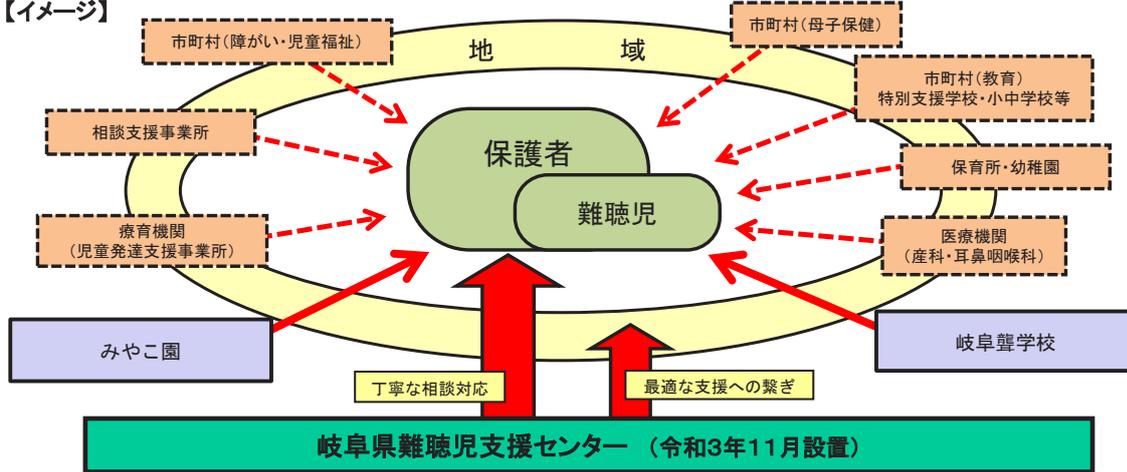
分野	所属
学識経験者	岐阜大学大学院医学研究科(耳鼻咽喉科学分野)
学識経験者	岐阜大学教育学部特別支援教育講座
医療機関	岐阜県医師会代表
医療機関	岐阜県産婦人科医会代表
医療機関	岐阜県総合医療センター新生児科代表
医療機関	赤井耳鼻咽喉科医院代表
療育機関	みやこ園代表
教育機関	岐阜県立岐阜聾学校代表
市町村	市町村保健活動推進協議会保健師部会代表
市町村	高山市子育て支援課長
関係団体(療育機関)	社会福祉法人高山市社会福祉協議会代表
関係団体	岐阜県言語聴覚士会代表
関係団体	岐阜県聴覚障害者協会代表
関係団体	一般社団法人ぎふケアマネジメントネットワーク代表
当事者	難聴のお子さんの保護者(3名)

10

## 難聴児への支援体制づくりの基本的な在り方

- 難聴児が住み慣れた地域でできるだけ不自由なく暮らしていけるよう、途切れなく支援できる体制を築く。
- 保護者に寄り添った相談対応を行うことで、抱えている不安等を和らげ、早期支援に繋げていく。

【イメージ】



11

## 2. 岐阜県難聴児支援センターの概要



12

## 難聴児支援センターの概要について

検討会において支援体制づくりについての検討を進めながら、以下の取組を進めています。

障がい福祉分野

耳のきこえに不安のあるお子さんやその保護者の方からの相談を面談、電話、メール等にてお受けする相談機関です。

### ◆ 岐阜県難聴児支援センターの設置

- (1) 目的 難聴児に対し、保健・医療・福祉・教育の各分野の関係機関の連携により、新生児期から学齢期までの一貫した支援を行うための拠点を設ける。
- (2) 名称 岐阜県難聴児支援センター
- (3) 開設日 令和3年11月1日(月)
- (4) 設置場所 岐阜大学医学部附属病院  
(岐阜大学医学部本館1階)
- (5) 運営体制 岐阜大学医学部附属病院への委託
- (6) 人員体制 センター長(小川武則 耳鼻咽喉科長・教授)  
副センター長(小原奈津子 臨床講師)  
特別アドバイザー(青木光広 岐阜大学招聘教員)  
支援員1名(言語聴覚士)  
事務員1名



13

## 難聴児支援センターの事業内容について①

### ① 相談支援

○新生児聴覚スクリーニング検査の時点から最適な支援に繋がられるよう、関係機関(市町村(保健・福祉)、医療機関、療育機関等)と連携しながら対応

#### 【初期相談・総合相談】

- ・毎週火曜日に「こどものきこえの相談日」を設定し、個別相談に対応
- ・相談日以外においても、来室、電話、メール、リモートでの個別相談に対応
- ・保護者からの求めに応じ、居宅での個別相談(出張相談)にも対応
- ・飛騨地域、東濃地域での出張相談日を設定(リモート相談を適宜実施。)
- ・保護者からの求めに応じ、耳鼻咽喉科医(精密検査)の受診時の付添を実施

#### 【個別一貫支援】

- ・療育等の関係機関に繋いだ後も、継続的に難聴児への支援を実施(伴走型支援)



### ② 保護者支援

- ・保護者の方向け学習会の開催、保護者の方向けサポートブックの作成

### ③ 関係機関との連携

- ・センター運営会議の開催による連携強化

### ④ 普及啓発

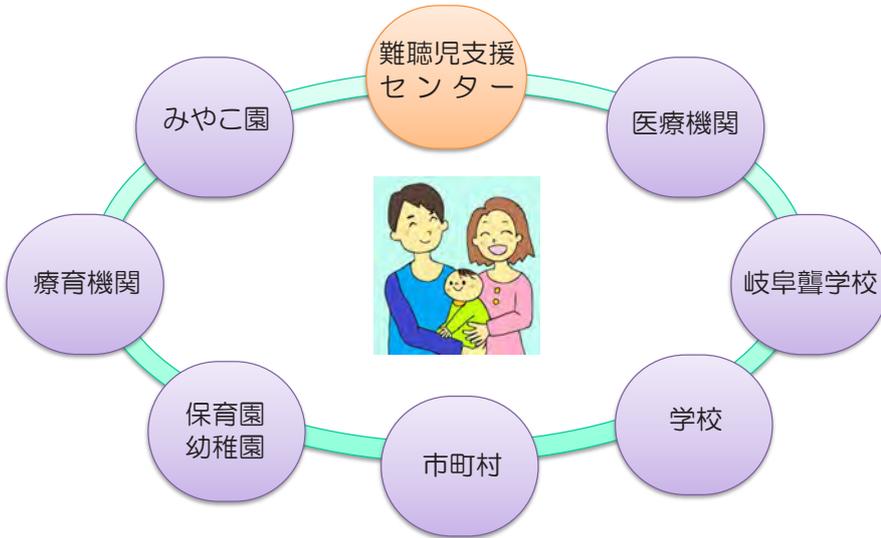
- ・難聴児支援に関する広報、出前講座の開催



14

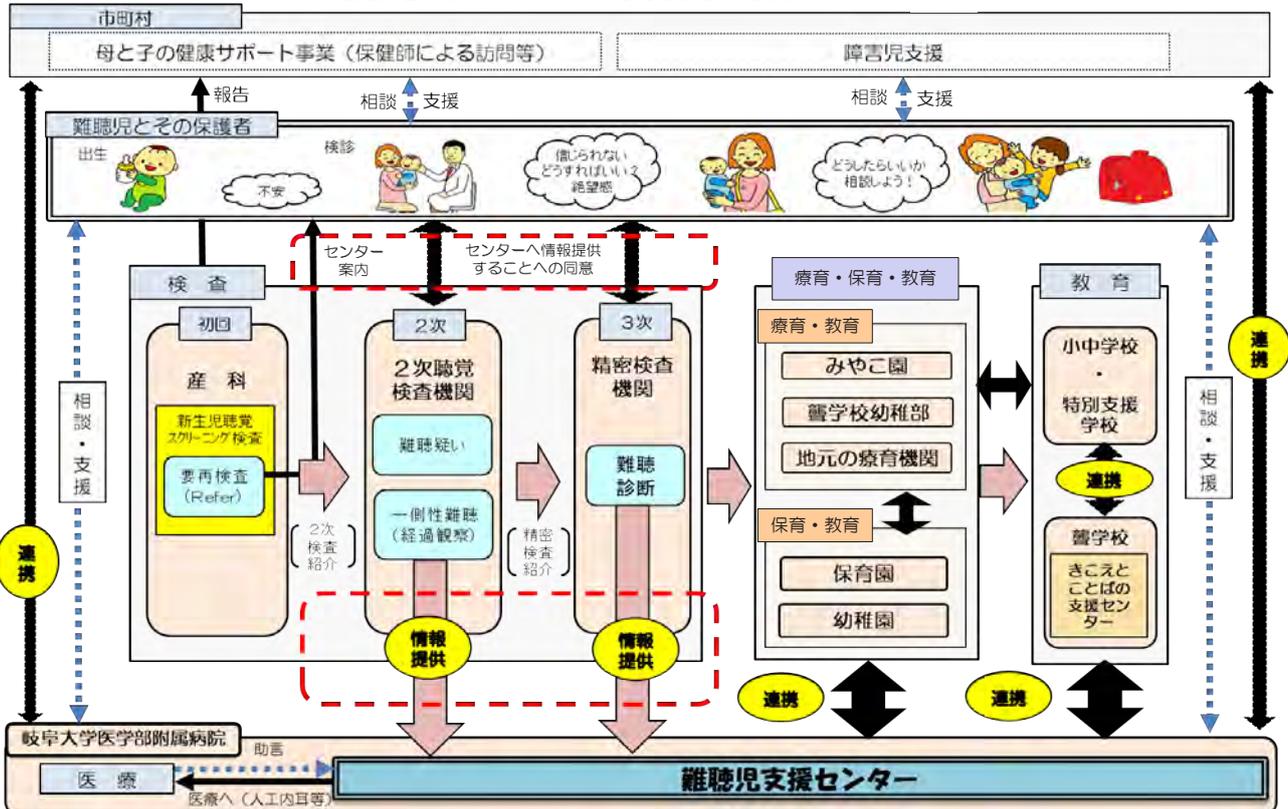
## 難聴児支援センターの事業内容について②

- ◎センターでは、耳のきこえに不安があるお子さんを支援する保健・医療・福祉・教育の多くの支援機関と関わり合いながら相談をお受けします。
- ◎よりよい支援に繋がられるよう、お子さんとその保護者の方に寄り添い、お子さんの成長過程で生じる様々な悩みごとに対し、丁寧に対応します。



15

## 難聴児支援センターと関係機関の連携について



16

### 3. 令和3年度の主な取組



17

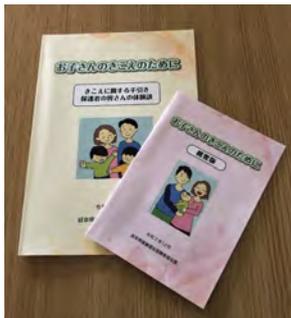
## 令和3年度の主な取組

検討会において支援体制づくりについての検討を進めながら、以下の取組を進めています。

障がい福祉分野

#### ◆ 岐阜県難聴児支援センターの設置

○難聴児が早期かつ適切に療育等の支援が受けられるよう、岐阜大学医学部附属病院内に、専門的な知見による相談対応、保護者の方向けの学習会の開催等を行う「岐阜県難聴児支援センター」を設置する。



#### ◆ 保護者の皆さんの不安を和らげるための取組

- 保護者の方の不安の軽減、交流の場づくり等を目指すものとして、保護者の方向けの学習会等を開催する。
- お子さんの支援に関する保護者の方向けの手引書「お子さんのきこえのために」を関係機関（医療機関、市町村福祉・母子保健部門、児童発達支援事業所等）を通じて保護者の方々に配布する。

18

### ◆ 身近で支援を受けながら生活できるようにするための取組

- きこえにくいお子さんが地域において利用する学校、保育所、幼稚園、児童発達支援事業所等に、専門療育機関（みやこ園）の職員が赴き、当該お子さんに対する支援方法に関する指導、助言等を行う。
- 児童発達支援事業所がきこえにくいお子さんを受け入れる際の支援スキルの獲得のため、当該事業所職員が専門療育機関（みやこ園）による研修を受けられるようにする。

#### 母子保健分野

### ◆ 新生児聴覚スクリーニング検査の推進

- 新生児聴覚スクリーニング検査の受検状況と結果を把握し、精密検査の対象となったお子さんに対し、円滑な支援に繋がれるようにする。



#### 教育分野

### ◆ 聴覚障がい児童生徒への支援の充実

- 岐阜聾学校や恵那特別支援学校、飛騨特別支援学校が対象となるお子さんの在籍する園や小中学校等に対し、聴覚障がい支援に関する指導・助言を行う。
- 県全域、飛騨及び東濃地域において、聴覚障がい教育に関する研修会及び保護者向け相談会を実施する。
- 岐阜聾学校及び聴覚障がいに係る合理的配慮を必要とする県立学校に在籍する児童生徒に対し、音声を変換するソフトを活用した学習支援を行う。

19

## 4. 市町村に求められる役割



20

## 市町村に求められる役割について①

### 保護者の方より

- ◎難聴と診断を受けてから、だれに、どこに相談したらいいかわからず、不安だった。
- ◎1歳まで様子見と病院から言われたが、はやくから療育機関に通うべきなのかわからない。
- ◎市町村職員に人工内耳について相談したが、人工内耳について知らず無知であった。
- ◎たらい回しにされ、関係機関があまり連携をとれていないと感じた。
- ◎分野を超えて相談できる県の部署や市の相談員などがいれば、難聴児を安心して育てられる。
- ◎他県で難聴と診断を受けたが、医療、福祉、教育機関との連携のもと、丁寧かつ適切な支援が受けられたため、大きな悩みや不安はなかった。
- ◎一側性難聴の場合、その後のケアがなく、きちんと学習できているか心配になった。



21

## 市町村に求められる役割について②

### ◎ 共通

市町村の保健・福祉・教育の各部署及び医療・福祉等支援機関の連携による難聴児への支援

- ・各部署の相談先の明確化（担当者を明らかにする）
- ・保健・福祉・教育の市町村各部署及び地域の医療機関・療育機関・保育所等・小中学校等の連携（情報共有と課題の整理、ライフステージに応じた支援）
- ・お子さんの難聴の状態（一側性難聴を含む）に応じた配慮（環境づくり、接し方、就学時の引継）
- ・岐阜県難聴児支援センターと連携した支援（情報共有、保護者向け学習会等の行事案内、サポートブックの配布など）
- ・サポートブック等を活用した難聴児支援体制の説明

### ◎ 母子保健・保育

- ・新生児聴覚スクリーニング検査の受検率向上、検査の勧奨
- ・新生児聴覚スクリーニング検査等でRefer（要再検）と判断された方の把握とフォロー（2次検査機関、精密検査機関への受診促進、母と子の健康サポート事業による支援など）
- ・難聴診断が確定した方の把握とフォロー（医療・療育への繋ぎ※など）  
※難聴と判明してから6ヶ月以内に補聴器を装用し、療育をするのが望ましいため、支援機関（みやこ園及び岐阜聾学校等）及び相談機関（岐阜県難聴児支援センター）を紹介する。
- ・一側性難聴の方の把握とフォロー
- ・保育所等での受け入れ体制の整備及び環境づくり

22

## 市町村に求められる役割について③

### ◎ 福祉(療育)

- ・療育・相談機関の利用促進
- ・療育機関等での受け入れ体制の整備及び環境づくり
- ・身体障害者手帳の交付、障がい福祉サービスの支給決定
- ・補聴器の購入等の支援
- ・市町村自立支援協議会による支援の推進
- ・就学児の適切な小学校との連携



### ◎ 教育

- ・岐阜聾学校等の専門教育機関との連携
- ・対象となる幼児児童生徒の教育的ニーズの整理と必要な支援の内容の検討
- ・個別の教育支援計画及び個別の指導計画に基づいた適切な指導及び支援
- ・教育上の合理的配慮の提供と基礎的環境整備



23

## <参考にさせていただいた先進県>

### センターの設置にあたり、参考にさせていただいた先進県（10県）

富山県、長野県、静岡県、三重県、滋賀県、兵庫県、香川県、高知県、長崎県、宮崎県【中核機能の整備状況調査結果(令和元年12月岐阜県障害福祉課調べ)】

### センター開設に向けて視察させていただいた先進県（2県）

長野県（長野県難聴児支援センター）、静岡県（静岡県乳幼児聴覚支援センター）

御協力ありがとうございました。



24

**ご清聴ありがとうございました。**



イラスト：イラストわんバグ

25

令和3年度 難聴児の切れ目ない支援体制構築と更なる支援の推進に向けた  
地区別研究協議会

◇岐阜県の取り組み紹介へ参加者からの質問と回答集

質問①	4部局の連携は、具体的にはどのようにされているのでしょうか。例えば定期的にあるいは必要があるときに呼びかけ合って、会議を持っているということでしょうか。
回答①	岐阜県の難聴児支援に関する検討会の事務局として、先ほど申し上げた4課が入っております。例えば子育て支援課ですと、スクリーニング検査のあり方についての課題、私どもですと、難聴で支援センターに関する立ち上げをどうしていくのかということなど、それぞれ課題を持ち寄って検討会で議論をさせていただいています。
質問②	センター運営会議はとても良い仕組みと思いますが、メンバーはどのような構成になっているのでしょうか。月に1回開催ということ（ホームページでは）ですが、負担にならずに開催できますでしょうか。
回答②	メンバーは、岐阜聾学校、難聴児専門療育機関みやこ園、県関係課（保健・福祉・教育）等です。当面は月1回開催としておりますが、その後は必要に応じて開催することとなります。また、オンラインでの開催を行うことも検討しています。
質問③	新スクは令和元年度12361人受けたとありましたが、出生数に対して何%なのか、新スクの助成等はあるのか知りたいです。
回答③	令和元年度において、出生数に対する新生児聴覚スクリーニング検査の受診率は、約97%と聞いております。また、新生児聴覚スクリーニング検査の費用の助成は、各市町村で実施しております。
質問④	センター運営会議の頻度、保護者学習会の頻度など教えていただければと思います。また、出前講座の対象は今のところどのような方々を想定されておられるか、教えていただきたいです。
回答④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センター運営会議は、当面は毎月行うこととしており、その後は必要に応じて開催することとなります。また、保護者向け学習会については、年に3地域（岐阜・西濃・中濃地域、東濃地域、飛騨地域）各2回ずつ実施する予定としております。</li> <li>・出前講座の対象者は一般の方や支援機関の従事者を想定しています。</li> </ul>
質問⑤	確定診断があったお子さんの情報が支援センターに提供されるということですが、センターが一括管理を目指すということでしょうか。また、情報提供を受けた後の働きかけは、センターから積極的に家庭に対して行うということでしょうか。それとも依頼があったらということで、見守るスタンスでしょうか。
回答⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2次検査医療機関及び3次検査医療機関にて検査結果が正常以外であった場合で、保護者の同意を得られた場合にセンターへ情報提供いただく仕組みになっています。事前に情報提供いただくことで、円滑に相談支援を行うことができます。</li> <li>・情報提供を受けた後の働きかけは、却って保護者の方の不安を煽ることにつながる場合もあるため、保護者の方からの連絡を待つこととしています。そのため、保護者の方の状況を知っている市町村（保健師）に働きかけをお願いしています。また、市町村、医療機関等の支援機関に不安を抱える保護者の方へ当センターを紹介いただけるようお願いしております。</li> </ul>

質問⑥	センターの職員は6人とのことですが、相談の対応や学習会の開催においては、ろう学校やみやこ園の職員と協力して行っているのでしょうか。
回答⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センターの職員は5名になります。</li> <li>・相談対応については、医師や言語聴覚士である支援員が行っています。</li> <li>・学習会については、テーマに応じて聾学校やみやこ園等の支援機関と協力して行うこととしています。</li> </ul>
質問⑦	対象児の情報を共有するにあたって、個人情報の問題はございましたか？ どのような課題があり、どのように解決されたかご教示いただきたいです。
回答⑦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新生児聴覚スクリーニング検査の結果を情報提供いただく際には、個人情報保護の観点から、検査機関から保護者の方に説明していただき、同意を得ていただくようお願いしています。</li> <li>・関係する支援機関に対象児の情報を提供する際には、事前に保護者の方に同意を得ることとしています。</li> </ul>
質問⑧	保護者向けの学習会では、手話を学ぶ事はできますか。手話は必ず必要になるものですが、小さい子供を持つ保護者が学ぶ場がほとんどありません。センターでやっていただくのが保護者にとって学びやすいと思います
回答⑧	コミュニケーション方法の一つとして手話をテーマにすることを想定しています。

# 北九州市における 聴覚障害児支援体制構築 に向けた取組み

北九州市保健福祉局障害福祉部  
障害者支援課



1

## 北九州市のご紹介

### 九州最北端の政令指定都市



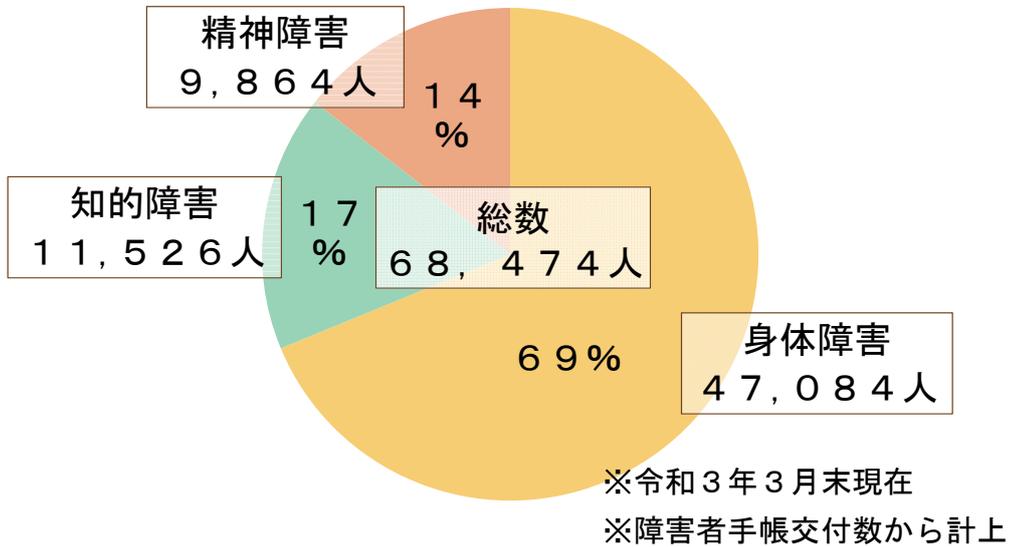
人口 932,144人 (令和3年10月1日現在)

面積 491.71 Km<sup>2</sup> (令和3年10月1日現在)

2

## 北九州市における障害のある人の状況

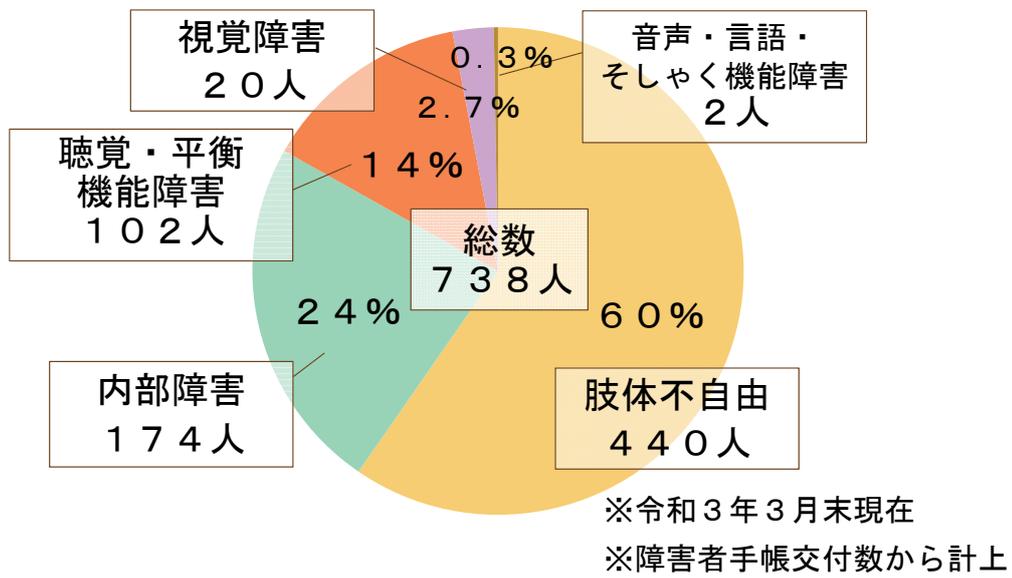
北九州市内の障害のある人の数



3

## 北九州市における障害児の状況

北九州市内の身体障害のある子どもの数



4

## 北九州市における聴覚障害児の状況

### 新生児聴覚スクリーニング検査 実施状況

年度	H30	R元	R2
受検者数	5,645人	5,331人	5,330人
追跡者数	41人	44人	32人
難聴疑	6人	14人	9人

毎年10人程度の難聴疑の子どもが出生

5

## 各部局の取組み

### 子ども家庭局

- ・ 新生児聴覚スクリーニング検査推進

### 教育委員会

- ・ 特別支援教育の推進

### 保健福祉局

- ・ 総合療育センターの運営

6

## 北九州市立総合療育センターについて



障害のある子どもたちの療育と医療の中核施設として、早期支援や療育訓練、相談支援等を行う

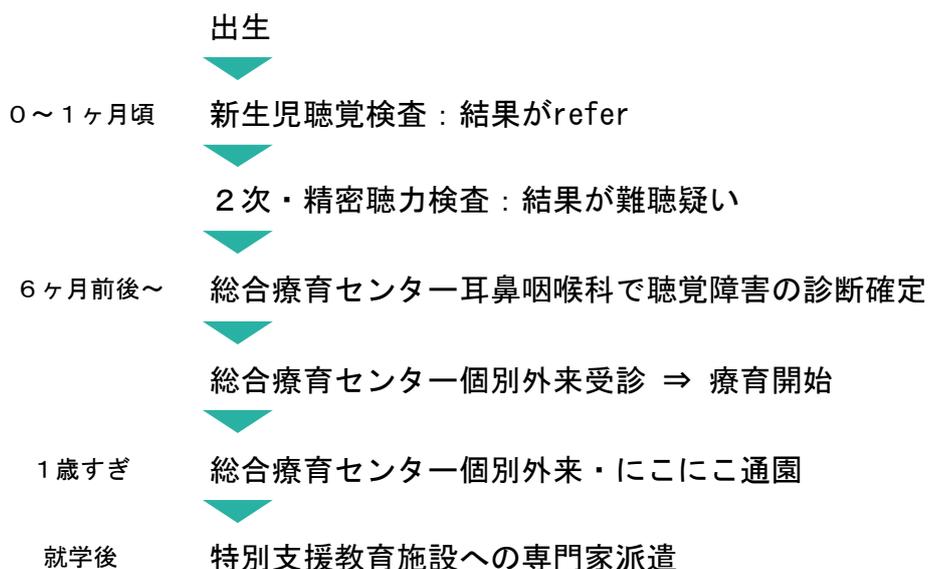
指定管理者：  
（社福）北九州市福祉事業団

### ●主な機能

外来	小児科 内科 精神科 児童精神科 リハビリテーション科 整形外科 眼科 耳鼻咽喉科 泌尿器科 婦人科 歯科 小児歯科 矯正歯科		
入院・入所	足立園	医療型障害児入所施設 療養介護	【99床】
		短期入所	【26床】
通所	にこにこ通園	福祉型児童発達支援センター	【40人】
	ナイスデイ	障害福祉サービス（生活介護）	【15人】

7

## 総合療育センターの難聴児へのかかわり



8

## 聴覚障害児支援中核機能モデル事業①

各主体による支援体制は構築されている

でも、連携できている？  
保護者が知りたい情報は一元化されている？

総合療育センターを中心とした連携体制を活用

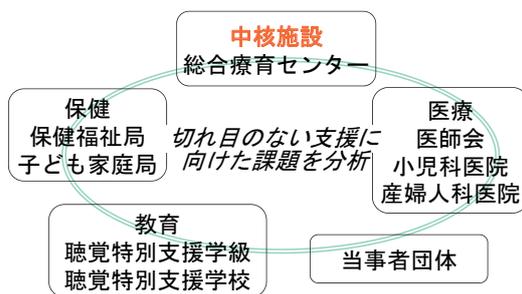
北九州市モデルのコンセプトは…

既存支援体制の活用・強化

9

## 聴覚障害児支援中核機能モデル事業②

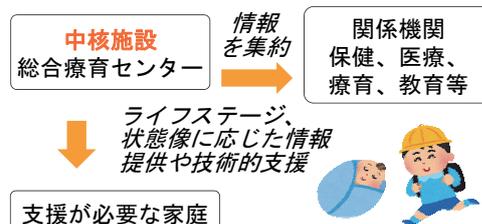
### 1 北九州市聴覚障害児支援協議会の設置



### 2 聴覚障害児支援の関係機関との連携



### 3 家族支援の実施



### 4 巡回支援の実施



### 5 聴覚障害児の支援方法に係わる研修の実施

10

## 北九州市聴覚障害児支援協議会について①

### ●構成員

専 門	所 属
産婦人科	北九州産婦人医会
耳鼻咽喉科	産業医科大学耳鼻咽喉科
療育	総合療育センター医師
	総合療育センター言語聴覚士
教育	福岡県立小倉聴覚特別支援学校
	北九州市立小倉中央小学校教諭
医師会	北九州市医師会理事 2 名
当事者	北九州聴覚障害児育児サークル「みみずく」
	当事者保護者（「みみずく」からの紹介）
事務局	総合療育センター言語聴覚士

### ●行政

専 門	所 属
子育て	子ども家庭局子育て支援部主幹
保健福祉	保健福祉局障害福祉部障害者支援課長

11

## 北九州市聴覚障害児支援協議会について②



↑北九州市聴覚障害児支援協議会の開催風景（令和3年8月6日開催）

12

## 北九州市聴覚障害児支援協議会について③



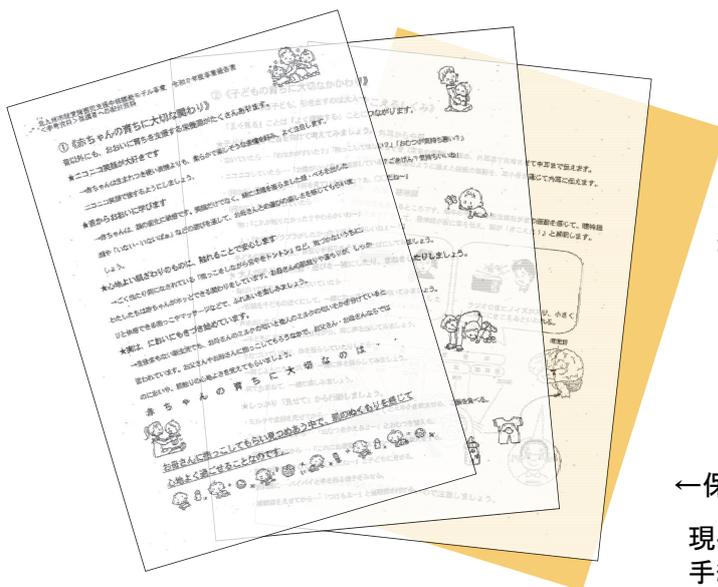
↑ 令和3年度作成啓発パンフレット

構成員から  
 新生児聴覚スクリーニング検査pass後  
 耳の聞こえで困る子どものケースの指摘

啓発パンフレットを作成

関連機関に送付  
 (保育所、幼稚園、小・中学校等)

## 家族支援

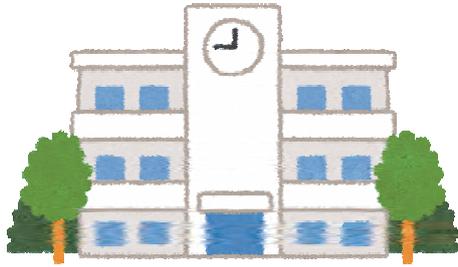


総合療育センターにて  
 ライフステージ、状態像  
 に応じた情報提供を実施

← 保護者への配布資料

現在は技術面の情報が充実  
 手続き面の情報強化を検討中

## 関係機関との連携、巡回支援①



← 訪問



特別支援教室	小学校 10校
特別支援学級	小学校 6校
	中学校 1校
通級指導教室	中学校 2校

言語聴覚士による  
指導助言・講義を実施  
(1回2時間程度)

↓  
教員の支援スキルUP

## 関係機関との連携、巡回支援②



↑ 言語聴覚士による児童発達支援センタースタッフへの講習

## 最後に

### 特に効果的だと感じた取組み ①

顔の見える関係性の構築  
(北九州市聴覚障害児支援協議会)

### 特に効果的だと感じた取組み ②

言語聴覚士による巡回支援  
▼  
継続的・定期的な支援が大切

17

ご清聴ありがとうございました



©ていたん&ブラックていたん,北九州市

18

令和3年度 難聴児の切れ目ない支援体制構築と更なる支援の推進に向けた  
地区別研究協議会

◇北九州市の取り組み紹介へ参加者からの質問と回答集

質問①	北九州市の支援体制について、市内で完結しているのでしょうか。 支援体制に関して、福岡県や他の市町村との連携はありますか。
回答①	聴覚障害児支援の取り組みについては、幼少期から就学後に至るまで、様々な機能が北九州市内に揃っているため、そういった意味では一定程度完結していると思います。また、モデル事業の中核施設である総合療育センターは、福岡県北部を中心に、北九州市以外からも障害を持っているお子さんが利用されています。
質問②	新生児聴覚スクリーニングに北九州市として助成はありますか。
回答②	北九州市からほぼ半額の助成を行っています。検査の種類については、自動 ABR と OAE と 2 種類ありますが、自動 ABR については 2500 円の助成、OAE については 1500 円の助成をしています。
質問③	総合療育センターの耳鼻咽喉科で、聴覚障害の診断が確定された後に、「乳幼児教育相談」と「にこにこ通園」の両方とも紹介されるということでしょうか。
回答③	総合療育センターの耳鼻咽喉科受診後、言語の個別外来を開始します。その後、年齢によって「にこにこ通園」をご紹介したり、県の小倉聴覚特別支援学校で行われている教育相談等もおすすめて、保護者の方に利用していただいています。その選択は、保護者の方にお任せしています。
質問④	「にこにこ通園」での療育の内容や頻度について教えていただけますでしょうか。
回答④	現在、「にこにこ通園」で難聴児のみを集めたクラスはありません。他の発達障害のお子さんたちと同じクラスで行っています。通園自体は利用が週に 2 回あり、その中に、言語聴覚士、保育士や心理士が入り、お子さんと保護者の方に支援を行っています。
質問⑤	にこにこ通園と小倉聴覚特別支援学校は、どのような連携をされていますでしょうか。
回答⑤	「にこにこ通園」の年齢が、小倉聴覚特別支援学校の教育相談と重なることもあります。にこにこ通園卒園後に小倉聴覚特別支援学校の幼稚部に行かれる方は、そこで情報交換をしています。通園内でのお子さんの様子を、小倉聴覚特別支援学校に手紙でお伝えします。
質問⑥	言語聴覚士が、小学校、中学校、そしてろう学校にも指導や講義や助言に行かれるということでしたか、その頻度や言語聴覚士さんは何人で実施しているのでしょうか。
回答⑥	まず、小倉聴覚特別支援学校は、そのときによっても違いがありますが、昨年度や今年度の今ままで大体 2 件ご相談をいただいています。担当者が行くことが多いので、言語聴覚士 1 名で行っています。次に、小学校・中学校の特別支援学級等は、各校に年間約 1 回、全体で年間 23 回訪問の予定としています。こちらは言語聴覚士 4 名で担当しています。
質問⑦	北九州市聴覚障害児支援協議会には、成人・聴覚障がい者の団体等の当事者は参加していますか。

回答⑦	聴覚障害児の支援体制構築を目的とした協議会であることから、成人・聴覚障がい者の団体等の当事者の方にはご参加いただけていません。
質問⑧	地域の小中学校への巡回支援では、言語聴覚士だけでなく、聴覚特別支援学校の教員も同行することはありますか。
回答⑧	地域の小中学校への巡回支援で、本市が派遣する言語聴覚士に、県立聴覚特別支援学校の教員が同行することはありません。 <p>特別支援学校には、「センター的機能」という地域の学校に対する相談支援機能があるため、県立聴覚特別支援学校のセンター的機能として、地域の小・中・特別支援学校を訪問し、聞こえに困難のある児童生徒への対応に関する指導助言を行うことはあります。</p> <p>なお、特別支援教室、通級指導教室については、対象児の在籍校がセンター的機能を活用する際に連携することはありませんが、基本的には、関連はありません。</p>
質問⑨	特別支援教室と特別支援学級の違いを教えてください。
回答⑨	「特別支援教室」は、通常の学級に在籍している軽度の障害のある児童生徒が、在籍校で巡回指導教員から指導を受けられる新しい指導形態です。「通級指導教室」と似ていますが、児童生徒が設置校に通う「通級指導教室」と異なり、「特別支援教室」では、児童生徒が別の学校（設置校）に移動する必要がありません。 <p>本市では、対象児童の在籍する全ての小学校で実施しています。</p> <p>「特別支援学級」は、小集団で児童生徒の発達段階に応じた教育を行い、障害による学習上又は生活上の困難の改善・克服を図るとともに社会生活に参加していく力を培うための学級です。</p>
質問⑩	特別支援教室、特別支援学級、通級指導教室は、様々な障害の子供を対象としていると思います。「聴覚」に関しては、それぞれいくつつありますか。
回答⑩	特別支援教室は10校の拠点校があり、全てが難聴に対応しています。 <p>特別支援学級は全体166校のうち、「難聴」を対象としているのは7校、通級指導教室は全体5校のうち、「難聴」を対象としているのは2校です。</p>



## 発行元

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所  
〒239-8585 神奈川県横須賀市野比5-1-1  
TEL:046-839-6875 FAX:046-839-6909  
<https://www.nise.go.jp/nc/>

## 本件についての問い合わせ先

聴覚障害教育研究班 山本 晃・井口 亜希子

(2022年3月発行)